

入学案内 2023



北陸発



最先端

JAIST について

北陸先端科学技術大学院大学

(JAIST: Japan Advanced Institute of Science and Technology) は、学部を置くことなく、独自のキャンパスと教育研究組織を持つ、日本で最初の国立大学院大学として平成2年に創設されました。

研究科等の主な沿革

平成 2年10月 開学 情報科学研究科を設置

平成 3年 4月 材料科学研究科を設置

平成 8年 5月 知識科学研究科を設置

平成 16年 4月 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学を設立

平成 18年 4月 マテリアルサイエンス研究科を設置 (材料科学研究科を名称変更)

平成 28年 4月 先端科学技術研究科先端科学技術専攻を設置

(知識科学研究科、情報科学研究科、マテリアルサイエンス研究科を統合)

平成 30年 4月 先端科学技術研究科融合科学共同専攻 (修士課程) を設置 (金沢大学との共同教育課程)

令和 2年 4月 先端科学技術研究科融合科学共同専攻 (博士後期課程) を設置 (金沢大学との共同教育課程)

表紙について

「新機関 (大改革)」フランシス・ベーコン (1561-1626) の巻頭口絵で、「世界の果て “ヘラクレスの門” から科学の帆船が未知の世界へと旅立つ場面」を描いたものです。附属図書館の壁面には巻頭口絵を陶板に焼き付けたレリーフが設置されています。

CONTENTS

学長メッセージ 03

先輩インタビュー 05

研究科について

研究大学「JAIST」、目指す人材像 08

先端科学技術研究科・研究領域の概要 09

東京サテライト 12

JAIST 5 つの魅力

教育システム 14

就職支援 20

研究機器・設備 25

国際交流 29

修学サポート 30

Campus Life

学生寄宿舍等 36

福利厚生施設 37

生活シミュレーション 38

附属図書館 39

JAIST 周辺 MAP 41

入試について

キャリア目標・教育プログラムと選抜試験 44

入試日程 45

学生データ 46

イベント情報 47

キャンパスマップ 48

JAIST へのアクセス 49

学長メッセージ

現在、世界はかつてないような規模とスピードで日々変化しています。このような世界の変化を的確にとらえ、そこで生じる新しい課題に挑戦し解決へと導くためには、広い分野の学術や先端科学技術の知識と方法論を身につけ、自主性とチャレンジ精神を持つ人材が必要とされます。

北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) は、独自のキャンパスと教育研究組織を持つ日本初の国立大学院大学として1990年10月に設立され、2020年に創立30年の節目を迎えました。この間、先端科学技術の広い分野で世界トップレベルの研究を推進し、これを通じた人材育成と社会貢献に努めるとともに、大学改革の先導的モデルとして新しい大学院像を示してきました。

この使命を受け継ぎつつ独自の研究の高度化と先鋭化を進め、世界トップの研究大学を目指すとともにグローバルに活躍できる人材を育成するための指針を『JAIST未来ビジョン』として2021年1月に策定しました。

[JAIST未来ビジョン]

北陸先端科学技術大学院大学は、独自の研究の高度化と先鋭化を進めつつ、国内外の大学や研究機関、産業界とのグローバルな連携に基づく新たな共創により、科学技術の未来を拓き世界の持続的発展に貢献するイノベーション創出拠点として、世界トップの研究大学を目指す。

全学一研究科体制の下、意欲に溢れた学生を国内外から広く受け入れ、先端科学技術の確かな専門性を持ち、新たな時代を先導する『しなやかな強さと共創力』を備えたグローバルリーダーとして育成する。

JAISTでは、2016年4月にスタートした1研究科体制に基づき、教員間の連携による新しい研究分野の開拓と異分野融合を進めています。文部科学省からも高く評価され、本学を代表する研究拠点であるエクセレントコアについても、メンバーに海外の研究者を加えることでグローバルエクセレントコアとして進化・発展させ、より進んだ国際連携体制に基づく世界レベルの研究を推進しています。

教育においては、学生それぞれの自主性を大切にしています。各学生は、自分自身の学修計画に基づいて修了に必要な単位を全開講科目から自由に選択することができ、幅広い知識と方法論をオーダーメイド的に修得することができます。

JAISTの在学生は40%以上が海外からの留学生であり、世界の多くの国から意欲にあふれた学生が集まっています。外国人数員の割合も日本の大学ではトップクラスであり、多くの授業が英語で行われています。東京サテライトを中心に社会人学生も多く在学しており、このようなダイバーシティ豊かな環境がチャレンジ精神にあふれたグローバルリーダーの育成に有効です。

また、産業界の知を研究だけでなく教育にも活かすべく、ベンチャー企業の社長から大企業の研究者まで幅広い層から産学官連携客員教員を80名程度任命し、修士・博士論文の中間発表会や各種のセミナーなどで学生たちを直接指導していただく機会を設けています。

JAISTは、これからも「世界トップレベルの研究の推進とこれを通じた人材育成、そして教育・研究による社会貢献」を使命として大きく発展していきます。

北陸先端科学技術大学院大学学長

奇野 稔





撮影場所：附属図書館

附属図書館は、平成8年4月に開館した鉄筋コンクリート3階建の建物です。「24時間開館」「研究図書館」「電子図書館」の3つをキーワードとして運営されており、アクセシビリティや蔵書構成において大学院大学にふさわしいクオリティを備えた大学図書館を実現しています。

先輩インタビュー



溢れるチャレンジ精神へ 確かに応える研鑽の舎。

博士前期課程 佐藤研究室
(創造社会デザイン研究領域)

錦織 さくら さん

JAISTに入学前は、高専で情報工学系に所属、プロジェクションマッピングの制作や留学を体験。もっと知識を増やそうと思い、大学院に進みました。JAISTを選んだのは、主テーマと副テーマ2つの研究ができることと、自身の技術力の向上が望める環境で研究できることに惹かれたからです。現在、私はサイバー空間と実空間をつなぐディスプレイを主テーマにする研究室に在籍し、「頭を撫でる動作を検出可能な全周囲頭部型タッチスクリーン」の研究を行っています。開発したタッチスクリーンを、M1の12月にWISS2021というHCI (Human-Computer Interaction) の学会でデモ発表を行いました。私が在籍する研究室は、M1から積極的に学会発表をします。

本学の特徴の一つは高度な実験装置が揃っていることです。ディスプレイ等のデバイスを制作する私たちにとってありがたいのは、JAIST FABという施設。3Dプリンターやレーザーカッターなど多彩な工作機器が揃い、思いのままのデザインを加工できます。

私は情報系から知識科学系に専門を変えたことで、高専にはいなかった文系出身の友人を得られました。その友人たちと講義のグループワークで意見や発想を交え、「こんな考え方があるのか」と新鮮なインパクトを感じました。講義や研究と並行してM1の夏から就活をはじめ、参加したインターンシップがきっかけで希望の企業に内定をいただけました。おかげで、「2年間でしっかりとした成果を残そう」という入学当初の目標をかなえるため、卒業まで研究に全力没頭するつもりです。

オープンキャンパスに参加し、初めてJAISTに訪れたとき、高度な実験装置が揃い、しかも、学生自身がそれらを自由に使い、管理までも行っていることに驚きました。本学に進もうと決めたのは、ストレスのない研究環境に魅せられたからです。

学部では光に関する基礎的な研究をしていたので、本学では光の応用研究をしようと考え、水谷研究室へ。多機能を有する超高分子サクランを対象とし、特定の光をサクランに照射すると第二高調波が発生する現象について検証しました。博士後期課程については、周囲が就職活動をするのを見るにつけ、進むべきかどうか迷いました。それでも、「もっと知見を広めたい!」と覚悟を決め、熱電変換に取り組んでいる小矢野・宮田研究室へ。私はいま、注目を集める熱電材料のテルル化二銀について研究しているところです。

留学生が多いのも本学の特徴の一つです。水谷研究室では公用語は英語。おかげで、聞き取る力はかなり伸びました。また、先生方は、たいへん指導熱心で、私は小矢野・宮田研に入って間もなく学会に出ることになりました。「熱電材料という新たな分野に飛び込んで日が浅いの…」と思いつつも、学会の活気に触れられたことでモチベーションを掻き立てられました。

私の当面の目標は、査読の付いた英語論文を発表すること。ゆくゆくは企業の研究開発職として働きたいと思っています。そんな将来の自分を実現するため、いまの自分を鍛えています。

大学時代は物理学科で機械学習を利用した研究に携わりました。就職では機械学習を使うエンジニアを希望しましたが、物理専攻ということで、企業から「畑違い」と見なされ門前払い。専門力を身に付けて見返してやろう。これがJAISTに進んだ動機でした。

本学は情報セキュリティ、ネットワーク、ソフトウェア、人工知能、ゲーム、言語処理など情報科学を網羅するあらゆる研究室があり、授業も同じく、学生は多岐にわたる知識を段階的に取得できます。また、私が在籍する研究室の主要テーマは自然言語処理で、私は、機械学習を用いてSNSの投稿文からその人のプロフィールを予測するシステムを開発しているところです。

本学には高速ネットワーク、スパコンなどの高水準な設備が揃い、研究室には大容量のサーバや先輩がつくったデータセットがあり、非常に恵まれた環境です。学友はプログラミング初心者の方系出身者やプログラミング技術を向上させたい経験者などで、いろいろな知に触れられるのを面白く感じています。また、他の研究室と協働して「Kaggle」に参加しました。Kaggleは、企業や研究者がコンペ形式で課題を提示し、世界中のデータ分析のプロが最適モデルを競い合うというもの。チームメイトとの議論は刺激的でした。こうした経験を活かし、いずれはデータサイエンティストとして活躍したいと思います。



知力と経験豊かな データサイエンティストへ。

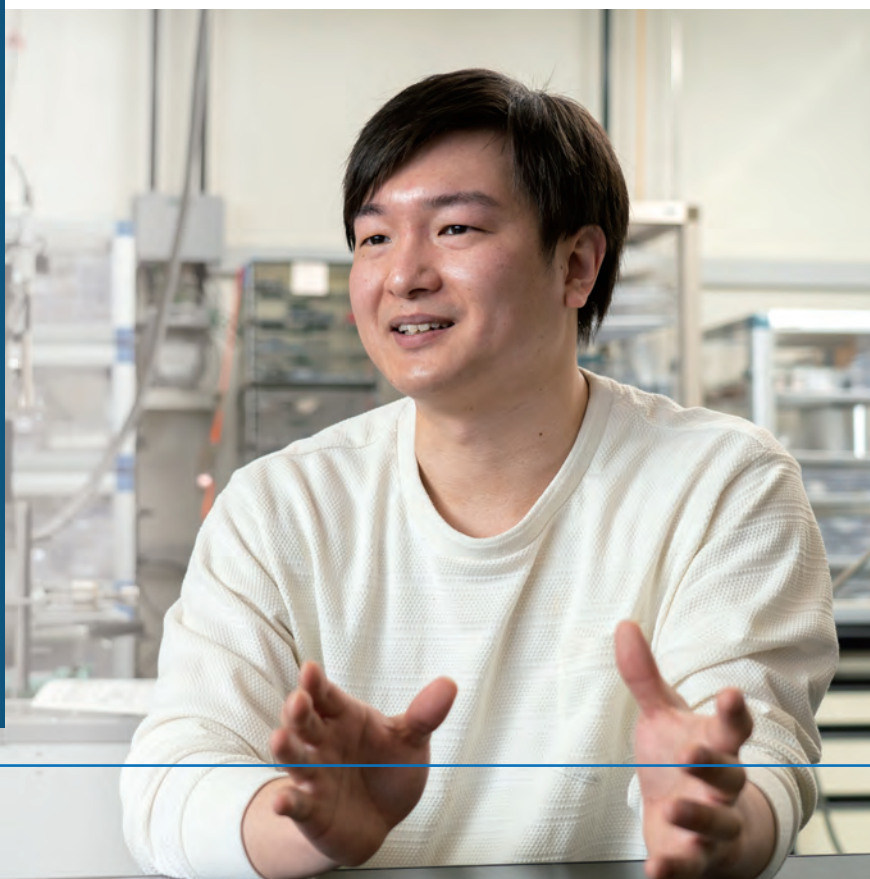
博士前期課程 白井研究室
(人間情報学研究領域)

廣田 遼 さん

研究意欲を呼び覚ます、 充実環境と指導陣

博士後期課程 小矢野・宮田研究室
(サステナブルイノベーション研究領域)

大根 誓哉 さん



研究科について

研究大学「JAIST」、目指す人材像 — P.08

先端科学技術研究科・研究領域の概要 P.09

東京サテライト — P.12

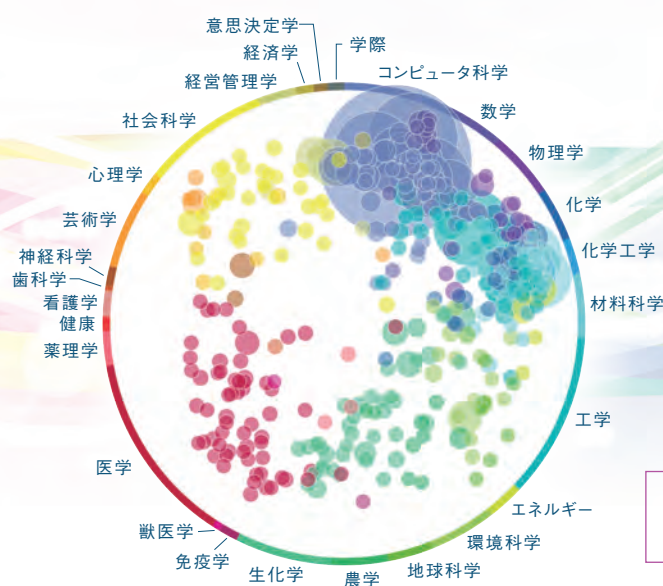
北陸先端科学技術大学院大学

研究大学「JAIST」

イノベーション創出を目的とする研究大学として、**3つの研究成果インパクトとプロミネンス**で研究力を総合的に分析・評価し、更なる研究力の向上に努めています。



JAISTでは
幅広い分野の研究を
行っています。
あなたの取り組みたい研究が
きっと見つかります!!



円の大きさは各研究分野における
論文数（2017年－2022年）を表す

（出典：ELSEVIER社©SciVal）

目指す人材像

博士前期課程

幅広い基盤的専門知識を理解し、
問題解決に応用できる能力

博士後期課程

高い研究能力と俯瞰的な視野をもち、
問題発見と解決ができる能力



- 世界トップレベルの研究を通じた専門性の高い研究室教育
- 先進的な教育カリキュラム
- 産業界の知の活用
- ダイバーシティ環境

先端科学技術の確かな専門性を持ち、新たな時代を先導する
しなやかな強さと共創力を備えたグローバルリーダーを育成します

先端科学技術研究科・研究領域の概要

研究科の目的

1

先端科学技術の確かな専門性ととも、幅広い視野や高い自主性、コミュニケーション能力を持つ、社会や産業界のリーダーを育成すること。

2

世界や社会の課題を解決する研究に挑戦し、卓越した研究拠点を形成すると同時に、多様な基礎研究により新たな領域を開拓し、研究成果の社会還元を積極的行うこと。



先端科学技術研究科には **10の研究領域** があり、学問分野の枠を超えた活動を行っています。

創造社会デザイン研究領域

誰もが輝く創造社会をデザイン!
科学・技術・芸術を融合・超越する
豊かな生活のための知の冒険

キーワード

創造性支援、ソーシャルネットワーク、デザイン思考、ヒューマンコンピュータインタラクション、メディアインタラクション、ビジュアルコンピューティング、防災科学、レジリエンス工学、アーバンデザインと健康、ネットワーク科学、コラボレーション、異文化理解、行動変容技術、身体性認知、STEAM教育、データ科学/AI応用

研究領域の概要

誰もが輝き心豊かな生活を送ることができる創造社会をデザインするために、人間的な要素（アナログ的）と機械的な要素（デジタル的）の両面からアプローチし、科学・技術・芸術を融合・超越する知の冒険に挑みます。具体的には、1) 人間の創造性を考慮した表現や協調活動に関する情報技術やインタラクションの研究、2) 安全・安心の実現を目的とするシミュレーション技術やネットワーク科学を用いた社会システムの研究、3) 人間の感性や価値観を取り入れて製品やサービスにイノベーションをもたらすデザインの研究を推進します。これら3つの研究を通して、誰もがQoL（生活の質：Quality of Life）向上やSDGs（持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals）達成のためのイノベーションに貢献できる人類社会の実現を目指します。

トランスフォーマティブ知識経営研究領域

人間がウェルビーイングを実感・追求できる社会の
推進に向けた変革志向の知識経営理論の構築
および実践的問題解決を目指す

キーワード

ウェルビーイング、知識創造、組織変革、グリーンサービスイノベーション、サステナビリティ、価値デザイン、IoTデザイン、持続可能性、医療現場のエスノグラフィ、ビジネスエスノグラフィ、次世代観光サービス創造、サービスインテリジェンス、人工知能

研究領域の概要

これまでの知識経営は、いわゆる現場の暗黙知を組織の競争的資源として機能させるべく、いかに知識を共有・活用するかに主たる焦点がありました。しかし次代の社会発展を踏まえた知識経営は、知識の創造・共有を通じていかに変化を起こし、人間のウェルビーイングに貢献できるかが鍵になるでしょう。我々は知識を、ウェルビーイングを実感・追求できる社会構築のための変革的資源として捉え、変革を促す知識および知識創造の在り方とは何か、変革力をつけるためにどう知識経営を刷新する必要があるか、を共通の問いとし、知識経営が有していた知識の創造・移転・管理の分析レンズを「知識による変革」の視点から定義し、理論構築、および変革を通じた実践的問題解決を目指します。

共創インテリジェンス研究領域

テクノロジーと人間の共創的な知識創造の研究を通じて、高度知識社会を持続的に発展・進展させる新たな知性を探求する

キーワード

知識科学、知識創造、認知科学、データ科学、人工知能、言語・コミュニケーション、言語の哲学、意思決定論、メタ認知、教育学、複雑系、創発・進化・制度、機械学習、計算科学、社会言語学、言語政策、創造プロセス、アイデア創出、経験学習、協調学習、学習プロセスデザイン

研究領域の概要

最先端の科学技術は人間の知的・身体的・心的な活動空間を拡張し、知識創造力を飛躍させます。一方、責任ある決断を行う総合的判断、弱いシグナルを捉える直感力、新たな問題を提起し仮説を作りながら知識を生み出す創造的な試行錯誤、他者と深くコミュニケーションし共創する力など、知的活動を解明し、活用するにはさらなる研究と実践の発展が求められます。知識創造が人間活動の中心、組織の競争力の源泉となる高度知識社会において、持続的に価値を生み出し発展させるには科学技術と人間の共創的な活動が重要です。私たちはこれら、最先端科学技術と人間の知性・創造性を融合して新たな知識を創造するプロセスを「共創インテリジェンス」と呼び、高度知識社会で必要な人間にとっての新たな知性を探究することを通じて、知性と創造性の本質を解明し、最先端科学技術を研究開発していくと同時に知性と科学技術のあり方を広く社会に提案していきます。

コンピューティング科学研究領域

計算を科学し、計算できることの限界を知り、膨大なデータから正しい結論を導く方法を明らかにする

キーワード

情報科学、情報セキュリティ、数理論理学、人工知能、定理自動証明、形式手法、理論計算機科学、データサイエンス、分散システム、アルゴリズム、情報理論

研究領域の概要

世の中には解かなければならない課題が山積していますが、コンピュータを使えば、どんな問題でもたちどころに解決できるというわけではありません。たとえパソコンを使っても、原理的に解けない問題もあれば、宇宙の寿命よりも長い時間をかけないと解けない問題もあります。バグのないプログラムを正しく作成して、膨大なデータから意味のあるデータだけを取り出して、本当に必要とする答えを妥当な時間で手に入れるには、どうしたらよいのでしょうか。こうした計算の安全性や正当性、妥当性はどのように保証したらよいのでしょうか。

本研究領域は、情報科学の観点から、コンピュータサイエンス、数学、人工知能、データサイエンスおよびその他関連分野を基礎理論から応用に到るまで、横断的に研究・教育する学際的な研究領域であり、コンピューティング分野や人工知能の進化を推進することを目指しています。

次世代デジタル社会基盤研究領域

未来の社会を実現し、人類の発展を支える次世代情報システムの研究を推進

キーワード

スマートシティ、サイバーセキュリティ、IoT、インターネット、情報システム、組込みシステム、ソフトウェアエンジニアリング、形式手法、次世代ワイヤレス・センサー通信、超LSI設計法、AIプラットフォーム

研究領域の概要

すべての科学技術の発展の裏には、計算機システムとネットワーク、すなわちICT (Information and Communications Technology : 情報通信技術) の大幅な進歩があります。また、ICT投資が企業業績と密接な関係があることも判明し、我が国の成長戦略の中心に位置づけられるようになってきました。こうした動きは、今後のIoT (Internet of Things) 化により、日常生活の基盤が「スマート社会基盤」となりICTシステムへの依存度を増すにつれ、ますます進むものと思われます。本領域では、ICTシステムの根幹となる基盤技術の教育研究を推進しており、人材育成や学術的な成果はもとより、産業界への貢献、標準化活動、政府の政策決定に至るまで幅広く社会に貢献しています。

人間情報学研究領域

人間の情報処理機構を解明し、
より高度な情報処理システムへと応用する

キーワード

知覚・知能情報処理、社会的信号処理、マルチモダリティ、コミュニケーション、教育・学習工学、ゲーム情報学、自然言語処理、音声情報処理、画像・映像情報処理、ヒューマンインタフェース、知能ロボティクス、ソフトロボット、触覚センシング

研究領域の概要

私達の研究領域の目標は、人が外界やモノから感じ取るマルチモーダルな知覚情報をどのように情報処理し、伝達しているのかを、情報科学を中心として分野横断的アプローチから解明し、高次情報処理分野やロボティクス分野に展開することにあります。そのため、本研究領域では、人と人ならびに人と機械のコミュニケーションの理解を通じて、人の感覚知覚メカニズムの解明、多感覚モダリティと人間行動理解、言語・非言語情報の認識・理解、人間の思考プロセスとそのモデル化といった人間中心の研究に取り組みます。さらに、機械工学・制御工学に基づくロボット技術や、知覚・知能情報処理に基づく五感センシング技術、人・環境と適応的に相互作用をする知的エージェントとしてのロボット工学といった工学実装を中心とした研究に取り組みます。これらの多様な研究課題は、人と機械の調和のとれた人間中心社会 (Society 5.0) 形成に貢献します。

サステナブルイノベーション研究領域

持続可能な環境エネルギー・経済社会システム
構築のためのイノベーションを！

キーワード

持続可能エネルギー、熱電、太陽電池、人工光合成、天然分子、サイレントボイスセンシング、マテリアルズ・インフォマティクス、人工知能理論、量子シミュレーション

研究領域の概要

天然物質の新規光化学反応、原子層材料とシングルナノメータ加工技術、革新的太陽電池セル・モジュール製法などの新手法による持続可能エネルギー・材料の創成を総合的な狙いと定め、1) 人と自然のサイレントボイスを検出する超高感度センサと革新的ナノスケール熱制御デバイス、2) 持続可能かつ高機能な天然由来マテリアルの開発、3) 熱電変換の物理・持続可能エネルギー材料とデバイス応用、4) 新規プロセス技術を駆使したシリコン系次世代太陽電池の開発、5) 人工知能 (AI) 理論を援用した発見的物性マイニングの5つの柱を軸に、マテリアルサイエンス・情報科学・知識科学の全学系連携による最先端融合技術も駆使して、グローバルなSDGs課題に挑戦し、持続可能な未来の共生社会実現に貢献します。

物質化学フロンティア研究領域

化学分野の先端知識を用いて
新材料を分子・原子レベルで設計することを通して、
物質化学のフロンティアを開拓する

キーワード

ナノ材料化学、高分子化学、グリーンケミストリー、触媒化学、エネルギー関連材料、環境調和材料、バイオマテリアル、マテリアルズ・インフォマティクス、ナノマシン、高速AFMイメージング、レオロジー、光機能性材料、オペランド解析

研究領域の概要

私達の研究領域では、新しい機能や優れた性能を示す新規マテリアルの基本構造を化学の基本原理と応用技術、さらには最先端の機器による構造解析技術に基づいてデザインし、物質化学のフロンティアの開拓に取り組んでいます。また、豊かで持続可能な社会を具現化するために必要となる化学製品の開発やその製造プロセスを産業界に提案することで社会に貢献します。さらに、化学分野の先端知識を用いて新材料を分子・原子レベルで設計し、物質化学のフロンティアを開拓できる優れた研究者および技術者の育成に努めています。

ナノマテリアル・デバイス研究領域

ナノマテリアル・デバイスの先端科学技術を究め、
サステナブルな超スマート社会の実現を目指す

キーワード

ナノ粒子×バイオ・エネルギー、ナノワイヤ×スピンデバイス、
二次元材料×先端顕微鏡、ナノイメージング×分光、原子分
解能観察×オペランド計測、非線形光学顕微鏡×対称性の
破れを持つ材料、ナノ分光光学×超微量分析、スピントロニクス
×量子センシング、半導体エレクトロニクス×デバイス計測技
術、トランジスタ×機能性材料、ナノヘーバーデバイス×低温
結晶化プロセス、有機デバイス×オペランド解析、マテリアル
サイエンス×DX・データ

研究領域の概要

私達の研究領域では、創発的ナノマテリアルの合成・成長、先端的手法を用いた構造・物性解析とデバイス・センシング応用に取り組んでおり、さらには、量子技術、人工知能や自動化・ロボットの導入によるマテリアルサイエンスの新展開を目指しています。物理、化学、バイオ、材料、電気・電子、機械、情報など様々なバックグラウンドを持つ教員と学生が本研究領域に集い、協奏的共同研究の推進を通して、環境・エネルギー問題の解決、安心安全な社会の実現、人類社会の持続的繁栄に貢献すべく、マテリアルサイエンスのフロンティアを日々開拓しています。

バイオ機能医工学研究領域

バイオ機能の理解に基づく先端バイオテクノロジー研究と
バイオメディカル分野への応用展開

キーワード

バイオテクノロジー、バイオメディカル、タンパク質、
DNA/RNA、生体膜、糖鎖、バイオ分子解析、人工バイオ分
子創出、バイオデバイス、遺伝子編集、分子ロボティクス

研究領域の概要

生物は、タンパク質・核酸・生体膜・糖鎖などのバイオ分子を高度に機能化・組織化することで、様々なバイオ機能を発揮しています。私達の研究領域では、最先端のバイオテクノロジーに加え、JAIST独自のバイオ分子解析技術・人工バイオ分子創出技術・バイオデバイス技術・遺伝子編集技術・分子ロボティクス技術等を駆使して、分子レベルから細胞レベルにおけるバイオ機能のさらなる理解を目指しています。また、それらのバイオ機能を利用・制御・拡張し、先端バイオテクノロジーをさらに発展させることで、人類の健康・医療の発展に資するバイオメディカル・ヘルスケア分野への応用展開を行っています。産業界とも連携して、先端バイオテクノロジーの実用化・社会実装に積極的に取り組んでいます。

東京サテライト（東京社会人コース）

JAISTでは、社会人学生を対象に東京社会人コースを提供しています。

東京社会人コースでの講義及び研究指導は石川キャンパス及び東京サテライトで実施します。標準修業年限分の授業料で、標準修業年限を超えて一定期間にわたり計画的に履修することができる「長期履修制度」、社会人に適した「平日夜間・土曜日曜集中開講」、アクセスしやすい「JR品川駅港南口に隣接」等、働きながら学べる生涯教育の環境を提供しています。

常に時代に合わせた学修プログラムを提供して来ており、現在は、博士前期課程向けに、技術経営（MOT）プログラム、サービス経営（MOS）プログラム、IoT・AIイノベーションプログラムを提供しています。また、博士後期課程向けに、先端知識科学プログラム、先端情報科学プログラム、価値創造実践プログラムを提供しています。

東京社会人コースで学ぶことで、講義を通しての新しい知識の修得のみならず、博士前期課程では修士論文研究・課題研究を通して、博士後期課程では博士論文研究を通して、文献調査力・論理的思考力・発想力を強化する機会が得られます。さらに重要なことに、研究室指導や学生どうしの交流を通して、キャリアを築く助けとなる人的ネットワークの構築の機会が得られます。

本格的な「論文研究と知的交流」を価値とする生涯教育の実践の場、それがJAISTの東京社会人コースです。



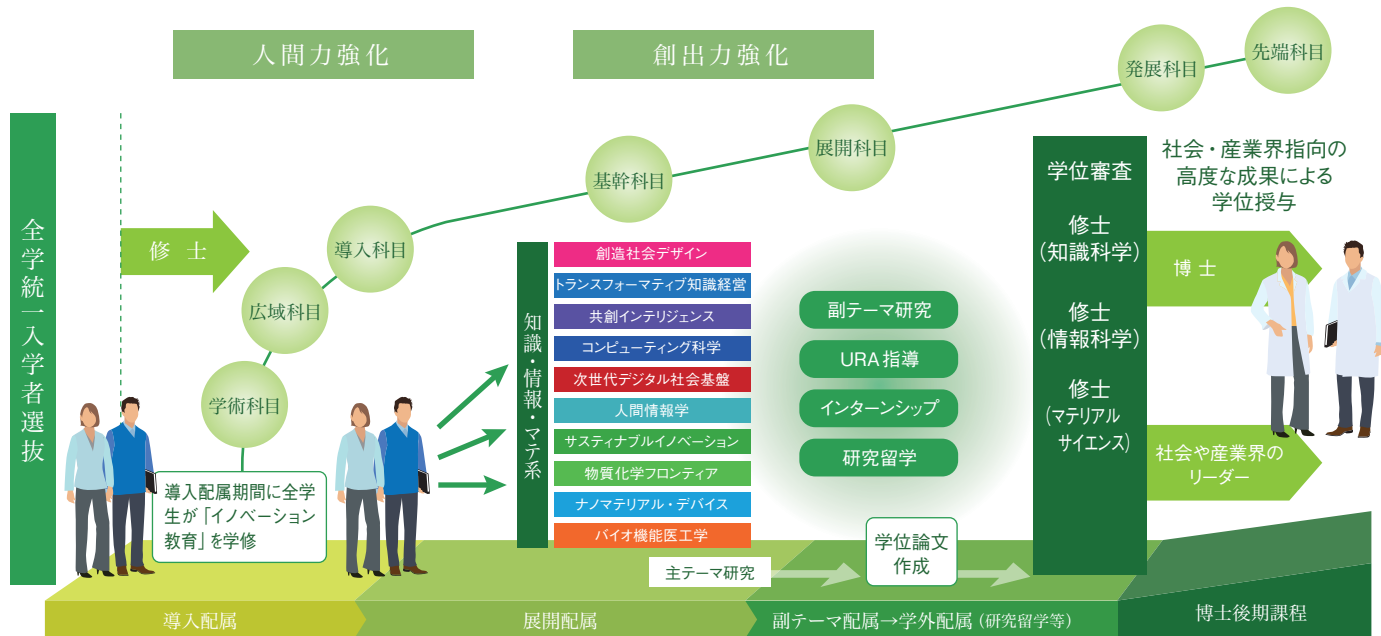
JAIST 5つの魅力

- FOCUS 01** JAISTの充実した教育システム ————— P.14
教育システムは、個々の学生の学修プランに対応できる柔軟なシステムになっています。
- FOCUS 02** 充実の就職支援 ————— P.20
就職活動スケジュールに合わせたガイダンスや学内企業説明会を実施するとともに、年間を通して専門のカウンセラーによる就職相談を利用できる環境・体制で就職支援を行っています。
- FOCUS 03** 最先端の研究機器と先進的な情報環境 ————— P.25
最高レベルの分析装置などの最先端研究機器と大規模並列計算機群などの先進的な情報環境を備えています。
- FOCUS 04** 積極的な国際交流 ————— P.29
多くの留学生との交流により多様な考え方や価値観に触れることができます。
- FOCUS 05** 多様な修学サポート ————— P.30
各種奨学金制度や授業料等の減免制度など多様な修学支援制度があります。



教育システムの特徴

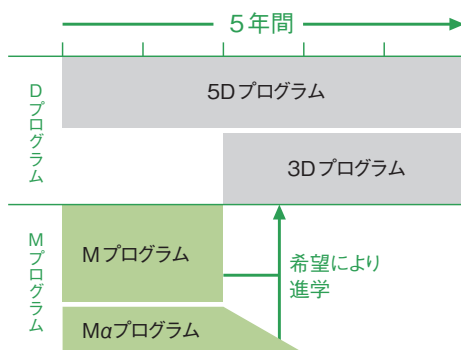
システム化した授業と研究指導によってしなやかな強さと共創力を備えたグローバルリーダーを育成



キャリアパス形成型の教育体系

■ 修学目的に対応した教育プログラムの提供

学生のキャリア目標の実現を支援するため、修学目的に対応した教育プログラムを提供しています。また、働きながら学びなおす社会人学生も支援し、長期履修など柔軟な履修を可能としています。



■ 取得できる学位

博士前期課程	修士 (知識科学) 修士 (情報科学) 修士 (マテリアルサイエンス)
博士後期課程	博士 (知識科学) 博士 (情報科学) 博士 (マテリアルサイエンス)

博士前期課程 + 博士後期課程	5Dプログラム	早期から博士の学位取得を目指す学生を対象に、博士前期課程と博士後期課程を有機的に接続させた5年一貫的な教育プログラム
博士後期課程	3Dプログラム	実践力重視により、従来型の博士後期課程を充実させた教育プログラム
博士前期課程	Mプログラム	実践力重視により、従来型の博士前期課程を充実させた教育プログラム Mプログラム修了後、博士後期課程 (3Dプログラム) に進学することも可能
	Maプログラム	分野変更者または基礎からじっくり学びたい学生を対象として、2年分から3年間でMプログラムと同様の修士教育を行う教育プログラム 2年分の授業料で最長3年間までの計画的な履修が可能

教育システムの内容

「知識科学的イノベーションデザイン教育」「人間力強化プログラム」「創出力強化プログラム」を組み合わせることで全学に展開します。

知識科学的イノベーションデザイン教育

以下の3つを体系的・統合的に修得

真のニーズや課題を探求し、
新しいアイデアやコンセプトを
創造する能力

要素技術と全体との相互作用を
分析し、要求を実現するシステムを
デザインする能力

技術・市場・組織・社会の
知識をイノベーションに結びつける
知識マネジメント能力

人間力強化プログラム

「人間力」とは、「知的能力」、「社会対人能力」、「自己制御能力」の3要素からなり、本プログラムでは、知識科学の方法論に基づいた人間力強化の教育プログラムを、学術科目や広域科目の中で実施し、キーコンピテンシー（聴く力・考える力・伝える力・挑む力・進める力）を養成します。個々人の学習（方法論の双方向講義）、グループワーク（自律学習）、ダブルループラーニングによる学修を行います。

創出力強化プログラム

「創出力」とは、「創造性」、「ものづくり」、「知識基盤社会」の3要素からなり、本プログラムでは、知識科学の方法論に基づいた専門知識を発展させることができる創出力の強化を、階層化された基幹科目や展開科目の履修及び研究指導の中で実施します。体系的な専門性を重視し、基幹科目、展開科目、先端科目を拡充して、学生が自律的に到達度を高められる教育を実践します。

全学オリエンテーションおよび必修科目

全入学生を対象に、一緒に学ぶ仲間と知り合う1週間の全学オリエンテーション（東京社会人コースを除く）を、入学直後に実施します。引き続き、イノベーション創出人材の基礎である「人間力」と「創出力」の開発を目的とする必修科目を開講します。必修科目では、通常の講義形式に加え、グループワーク形式の演習を実施します。演習では、社会のニーズと科学技術のシーズの関連付けを発見的に行うチーム課題解決活動を通し、イノベーションを生み出す共創の価値や楽しさを体験します。



■ 必修科目（博士前期課程）

- ・人間力イノベーション論 1単位
- ・創出力イノベーション論 1単位

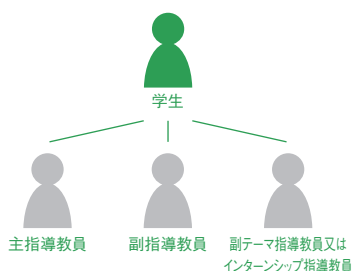
■ 必修科目（博士後期課程）

- ・人間力・創出力イノベーション論 1単位

指導体制等

■ 複数教員指導制

ひとりの学生に対して、主指導教員、副指導教員、副テーマ指導教員（又はインターンシップ指導教員）の3名の教員が教育・研究の指導にあたります。



■ 副テーマ研究

副テーマ研究は、専攻する分野に関する研究課題（主テーマ）のほかに、隣接または関連分野の基礎的な概念、知識、能力等を身につけるために第二の研究課題として課すものです。副テーマ研究においては、副テーマ指導教員の下で、学生のキャリア目標に応じて、産業界をはじめとする学外機関での指導、分野の異なる研究室での指導及び複数の学生で1つのテーマを探究する「グループ副テーマ」など、研究テーマに応じた柔軟な指導を実践しています。また、副テーマ研究に代わり、インターンシップを実施することも認められます。

■ 学修計画・記録書

入学から修了までの履修科目や学修の計画と記録、指導教員からの指導内容を記録し、自身の学修の振り返りを助けるものとして作成するものです。「学修計画・記録書」に沿って指導を受けることで、自身のキャリア目標、学修歴、研究計画等を踏まえ、他分野の科目も含めて関連性や難易度等を見据えた科目を体系的に履修することができます。

■ 産学連携による共創的実践教育

産業界のニーズと本学の研究シーズのマッチングをさらに強化するため、企業からの人材をURA（リサーチ・アドミニストレーター）として配置し、研究指導を行います。

■ 体系的な授業科目群

JAISTの授業科目は、自由科目、学術科目、広域科目、導入科目、基幹科目、展開科目、発展科目、先端科目の8つに区分され、以下のように構成しています。

	博士前期課程	博士後期課程
自由科目	自らの学修の補遺的な強化に資する授業科目群	
学術科目	異文化に触れながら グローバルな言語の強化に資する授業科目群	
広域科目	融合領域を広範に捉え、 自らの専門性の広角化に資する授業科目群	
導入科目	融合領域の境界を捉え、 自らの専門性の基盤化に資する授業科目群 修士レベルの専門基礎の強化	
基幹科目	融合領域の境界を越え、 自らの専門性の螺旋化に資する授業科目群 専攻分野の中核的知識・方法論等の強化	
展開科目	科学技術の展開を捉え、 自らの専門性の高度化を図る授業科目群 幅広い基盤的専門知識を理解し問題解決に 応用できる能力を定着	
発展科目		先端科学技術の発展を捉え、 自らの専門性の深化を図る授業科目群 博士レベルの専門応用の強化を図る授業科目群
先端科目		先端科学技術の深奥を捉え、 自らの専門性の確立を図る授業科目群 授業科目は主に英語で実施 世界的に通用する高い研究能力と俯瞰的な視野を持ち、 問題の発見と解決できる能力を付与し、定着を徹底

1つの授業科目につき、在籍課程及び取得を目指す学位（知識科学、情報科学、マテリアルサイエンス）により異なる科目区分を付す科目体系となっています。

（例）I2xx 科目○○○○論の単位を修得した場合、知識科学の学位取得を目指す博士前期課程の学生は展開科目として修了要件に算入することになるが、情報科学の学位取得を目指す博士前期課程の学生は基幹科目として修了要件に算入することになる。（下図参照）

	博士前期課程（学位：修士）			博士後期課程（学位：博士）		
	知識科学	情報科学	マテリアルサイエンス	知識科学	情報科学	マテリアルサイエンス
○○○○論	展開科目	基幹科目	基幹科目	発展科目	発展科目	自由科目

■ 学修プログラムの概要

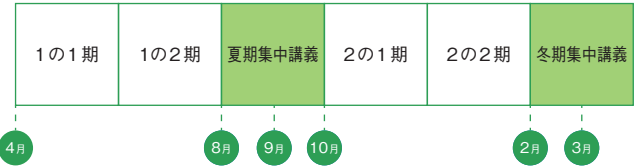
教育内容により区分した教育課程として次の学修プログラムを置いています。プログラム修了に必要な要件を満たした場合には、学修プログラム修了証を発行します。

	課 程	学修プログラム	学修プログラムの履修
石 川	博士前期	☐ データ分析学リーダー育成プログラム ☐ 高信頼IoT技術者育成プログラム ☐ 情報セキュリティプログラム ☐ ナノマテリアルテクノロジープログラム	任意
	博士後期	☐ データ分析学リーダー育成プログラム ☐ ナノマテリアルテクノロジープログラム	
東 京	博士前期	☐ 技術経営 (MOT) プログラム ☐ サービス経営 (MOS) プログラム ☐ IoT・AIイノベーションプログラム	必須
	博士後期	☐ 先端知識科学プログラム ☐ 先端情報科学プログラム	
		☐ 価値創造実践プログラム	自由選択

授業の実施方法

■ クォーター制

段階を踏みながら短期間で効率よく必要な知識を獲得できるよう、JAISTではクォーター制という授業システムを導入しています。これは、1学期を2ヶ月単位とし、1期8週間で完結する授業形態を4月から翌2月までの間に全部で4期間実施する制度です。各科目とも週2回授業を行い、学生が短期間で集中的に授業科目を履修し、高度な知識を早い段階で獲得できるようにしています。



■ 授業時間

授業は1回100分とし、2単位科目であれば基本的に14回開講します。

石 川	1時限	9:00~10:40
	2時限	10:50~12:30
	3時限	13:30~15:10 (チュートリアルアワー)
	4時限	15:20~17:00
	5時限	17:10~18:50

■ チュートリアルアワー

1単位45時間の単位制度の趣旨を徹底させるため、各科目週2回の集中的な講義を実施しているJAISTでは、授業は基本的に午前中のみ開講とし、午後からの時間は個別指導を行うためのチュートリアルアワーや講義の予習・復習・自己研究を行うための自主的活動時間にあてています。

チュートリアルアワーは、講義内容や日々の研究内容に疑問を持っている学生に対して、教員が積極的に対応する制度です。午後の時間帯をこれにあて、各教員やTA(ティーチングアシスタント)が、学生からの質問にきめ細やかに対応することで、理解力の向上を手助けしています。



東 京	1時限	9:20~11:00 (土曜、日曜)
	2時限	11:10~12:50 (土曜、日曜)
	3時限	13:50~15:30 (土曜、日曜)
	4時限	15:40~17:20 (土曜、日曜)
	5時限	17:30~19:10 (土曜、日曜)
	6時限	18:30~20:10 (月曜~金曜)
	7時限	20:15~21:55 (月曜~金曜)

■ 入学・進学前の修得単位の認定

入学・進学前に他大学大学院、JAIST博士前期課程及び科目等履修生時等に履修した授業科目において修得した単位をJAIST在籍課程で修得したものと認定することができます。

■ 長期履修制度

職務等の都合により大学での学修が制限され、標準修業年限での修了が困難であることが想定される場合で、かつ、長期履修の希望申請があった場合、標準修業年限を超えて一定期間にわたり計画的に履修することが認められます。

■ 短期修了

修了要件を満たした上で、優れた業績を上げた者と認められた場合、博士前期課程では1年以上、博士後期課程では3年(博士前期課程での在学年数を含む)以上在学すれば修了できます。

■ 単位互換制度

以下の大学院(協定校)の授業科目を履修することができます。

【協定校】
 金沢大学大学院自然科学研究科／金沢工業大学大学院工学研究科／
 放送大学大学院文化科学研究科／総合研究大学院大学先端学術院

修士学位への道 Mプログラム／Mαプログラム（博士前期課程）

Mプログラム

従来からの博士前期課程と同様、標準修業年限2年で修士の学位を取得するためのプログラムです。Mプログラム修了後、博士後期課程（3Dプログラム）に進学することも可能です。

Mαプログラム

JAIST入学後、学部時代からの専攻分野を変更した学生、または基礎からじっくり学びたい学生を対象として、2年間から3年間でMプログラムと同様の修士教育を行うプログラムです。2年を超える在学期間中は授業料が免除されます（免除期間は最長1年まで）。

主テーマ研究

基礎・専門知識の構築をより深く行う修士論文研究、特定の課題について研究を行う課題研究、博士後期課程での博士研究の計画とそれに備えた博士研究計画調査のいずれかを選択します。

Schedule

■ 修士論文研究、課題研究選択者のスケジュール（Mプログラム）

1 年 次 (M1)	4	研究室導入配属（仮配属）、必修科目履修	1の1期
	5		
	6	研究室展開配属（本配属）	1の2期
	7	副指導教員、教育プログラムの決定	
	8		夏期 集中講義
	9		
	10	副テーマ指導教員の決定、副テーマ研究の開始	2の1期
	11		
	12		2の2期
	1		
	2		冬期 集中講義
	3	研究計画提案書提出	
2 年 次 (M2)	4		1の1期
	5		
	6		1の2期
	7		
	8		夏期 集中講義
	9	修士論文等中間発表会	
	10		2の1期
	11		
	12		2の2期
	1	学位申請書等提出	
	2	修士論文／課題研究報告書の提出、発表・審査	
	3	学位記授与	

■ 博士研究計画調査選択者のスケジュール（5Dプログラムのみ）

1 年 次 (M1)	4	研究室導入配属（仮配属）、必修科目履修	1の1期
	5		
	6	研究室展開配属（本配属）	1の2期
	7	副指導教員、教育プログラム（5D）の決定	
	8		夏期 集中講義
	9		
	10	副テーマ指導教員の決定、副テーマ研究の開始	2の1期
	11		
	12		2の2期
	1		
	2		冬期 集中講義
	3	研究計画提案書提出	
2 年 次 (M2)	4		1の1期
	5		
	6		1の2期
	7	博士論文研究基礎力審査願の提出	
	8	博士論文研究基礎力予備審査	夏期 集中講義
	9		
	10	博士研究計画調査報告書の提出、博士論文研究基礎力審査	2の1期
	11		
	12		2の2期
	1	学位申請書等提出	
	2		
	3	学位記授与	

※上記スケジュールは、4月に入学し、2年間で課程を修了する場合の主な事項の目安の時期です。

■ 修了要件／博士前期課程

博士前期課程に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文、課題研究報告書又は博士研究計画調査報告書を提出し、その審査及び最終試験に合格することが修了要件です。

ただし、所定の要件を満たした者が優れた研究業績を挙げたと認められた場合は、在学期間2年を最短で1年に短縮することができる場合もあります。

博士学位への道

5Dプログラム（博士前期課程・博士後期課程） 3Dプログラム（博士後期課程）

5Dプログラム

博士前期課程と博士後期課程を有機的に接続して5年一貫的な博士教育を行うプログラムです。

3Dプログラム

MプログラムまたはMαプログラムからの進学者、あるいは他大学大学院からの進学者を対象にした、3年間の博士教育を行うプログラムです。

Schedule

■博士後期課程のスケジュール（3Dプログラム）

1 年 次 (D1)	4	研究室配属(本配属)、副指導教員の決定、必修科目履修	1の1期
	5	1年次の2月末までに副テーマ指導教員の決定、副テーマ研究開始	
	6		1の2期
	7		
	8		夏期 集中講義
	9	中間発表会	
	10		2の1期
	11		
	12		2の2期
	1		
	2		冬期 集中講義
	3	研究計画書提出	
2 年 次 (D2)	4		1の1期
	5		1の2期
	6		
	7		夏期 集中講義
	8		
	9		2の1期
	10		
	11		2の2期
	12		
	1		冬季 集中講義
	2		
	3		

3 年 次 (D3)	4		1の1期
	5		1の2期
	6		
	7	学位論文の骨子の提出	夏期 集中講義
	8		
	9		2の1期
	10	予備審査願の提出	
	11		2の2期
	12	予備審査会	
	1	学位申請書等・博士論文提出	
	2	公聴会・本審査・最終試験	
	3	学位記授与	

※5Dプログラムは、博士前期課程修了後、博士後期課程のスケジュールに合流。



※上記スケジュールは、4月に入学し、3年間で課程を修了する場合の主な事項の目安の時期です。

■修了要件／博士後期課程

博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格することが修了要件です。

ただし、所定の要件を満たした者が優れた研究業績を挙げたと認められた場合は、在学期間3年を最短で1年に短縮することができる場合もあります。



キャリア形成・就職サポート

就職支援室が皆さんの就職活動を強力にサポートします。

1 新入生就職ガイダンス

入学後早期に、大学院学生の就職活動のポイントを説明します。

2 インターンシップガイダンス・企業説明会

インターンシップ参加に向けての準備や就職活動への活かし方を専門の講師が数回にわたりアドバイスします。また、複数の企業を招いて説明会を実施します。

3 就職対策セミナー

企業の採用活動にも携わる専門の講師が就職活動のノウハウを数回にわたり伝授します。

4 学位別進路ガイダンス

求人側の特性や動向に合わせた進路ガイダンスを体系的に実施します。

5 SPI 模擬試験

就職試験対策としてSPI模擬試験を年数回実施します。

6 内定者との懇談会

1年次生は、すでに内定を得た2年次生の就職活動における体験談を聞くことができます。

7 学内業界研究セミナー／企業セミナー（合同・個別）

企業の個別セミナー（説明会）を学内で随時開催します。また、多数の企業が学内で一堂に会する合同業界研究セミナーを実施します。

8 面接トレーニング

面接は採用試験最大の関門です。本番で戸惑うことのないよう、トレーニングを実施します。

9 カウンセラーによる就職相談

専門のキャリア開発カウンセラーが親身になって相談に応じます。必要な時に適切なアドバイスが受けられます。（予約制）

10 JAIST キャリアサポートシステム

求人票は、学内者専用の本システムに登録します。このシステムを利用し企業名、業種、職種、求人数、学校推薦などの求人情報をいち早くチェックできます。

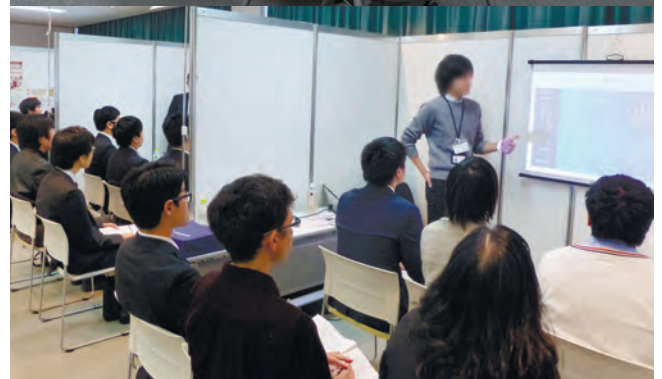
11 さまざまな費用助成

キャリア形成活動に関する交通費等の助成や、外国人留学生の職業指導に関する助成などがあります。

- ・キャリア形成活動費支援制度
- ・インターンシップ助成制度
- ・外国人留学生職業指導助成制度

12 JAIST オリジナル履歴書

JAISTのロゴ入りで、研究内容の記述欄を設けた、大学院生の就職活動に便利なオリジナル履歴書を封筒とセットで学内で販売しています。



就職までのスケジュール

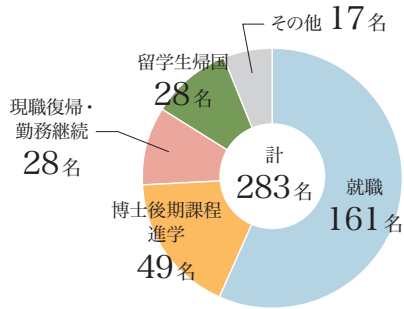
1年次から年間を通じて就職に関する相談が可能です。

また、就職活動期には模擬面接、エントリーシート・履歴書添削指導も行います。

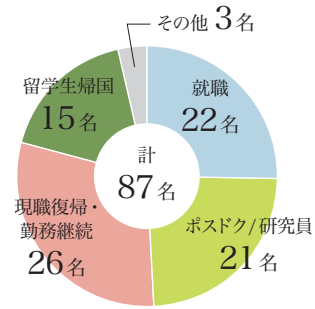
	就職活動		就職支援
1年次			
就職相談	1. 目標・活動プラン 希望進路の実現には何が必要か、目標を立てる。就職活動の基本を理解し、これからの活動プランを考える。	4～9月	・新入生就職ガイダンス ・インターンシップガイダンス (就活スタートアップ&IS概論、自己分析&業界研究、選考対策、マナー&総まとめ) ・学内合同企業インターンシップ説明会 ・学位別進路ガイダンス
	2. インターンシップ・オープンカンパニー等 近年、企業は学生へのPRの意味を含めてインターンシップにより力を入れる傾向に。ここがキャリア形成の重要期。企業と接点を持つことで、イベントの案内や早期選考の情報が得られることもある。		
	3. 自己分析・自己PR まず、自己を客観的に分析。何がやりたいのか、何に向いているのか、どのように働きたいのか、この時期に明確にしておく。また、早めに筆記試験の対策を行う。	10～11月	・就職対策セミナー (自己分析、業界・企業研究、履歴書・エントリーシート、面接・マナー対策) ・筆記試験対策講座 ・SPI模擬試験(10月～3月) ・留学生のための就職ガイダンス(日・英)
	4. 職業・職種の選択 自己分析をもとに、志望職種、業種の情報を収集し、「仕事」を絞り込む。その仕事で、自分の能力が、どの部分でどのように活かせるかを考える。		
	5. 実践に向けて 履歴書やエントリーシートの素案を考える。実際に書き、添削を繰り返し行い、書類選考の突破に向け準備する。		
	6. 業界研究 冬季インターンシップや各種セミナーに積極的に参加して業界研究を行う。 企業情報サイトだけでなく、会社四季報、新聞、雑誌や、公表されている事業報告書などを調べ、企業を選択する。OB・OGに相談するのもよい。	12月	・学校推薦等に関する説明会 / 内定者懇談会 ・学内合同業界研究セミナー
	7. 実践に向けて 本番で失敗しないよう、面接トレーニングや教員との対話により、面接試験の疑似体験を積む。	1～2月	
2年次	8. 就職活動本番 これまで培ってきた実力が試されるとき。修士の学生に求められる、高い専門性とコミュニケーション能力を発揮して自分の夢を勝ち取ろう。	3月～6月	・就職活動リスタートガイダンス
		7月	
		8月	
	内定獲得		

修了者の進路状況・主な就職先

令和4年度博士前期課程修了者 全体

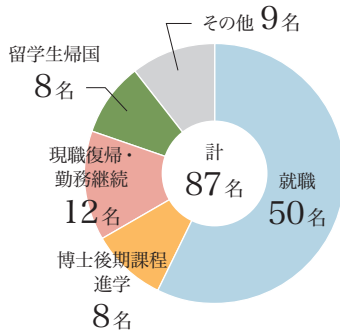


令和4年度博士後期課程修了者 全体

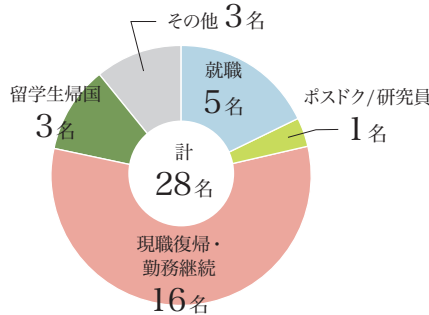


取得学位：知識科学（令和4年度修了者）

博士前期課程



博士後期課程

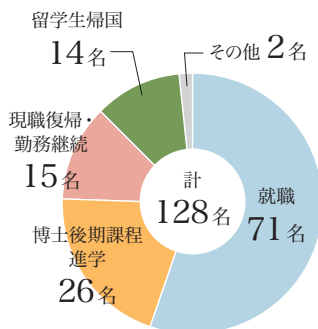


令和4年度までの修了者の主な就職先（博士前期課程）

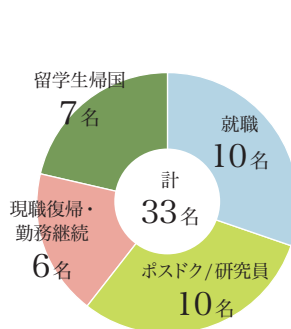
アイ・オー・データ機器、アクセンチュア、伊藤忠テクノソリューションズ、NEC、NECソリューションイノベータ、NTTドコモ、NTT西日本、オリンパス、京セラ、グリー、神戸製鋼所、サイバーエージェント、澁谷工業、シャープ、セイコーエプソン、ソニー、ソフトバンク、大日本印刷、TIS、デンソー、東芝、東芝デジタルソリューションズ、凸版印刷、トッパン・フォームズ、トヨタ自動車、バンダイナムコアミュージックエンタテインメント、日産自動車、ニフティ、日本アイ・ビー・エム、日本総合研究所、任天堂、パナソニック、日立システムズ、日立製作所、富士フイルムビジネスソリューション、富士通、フューチャーアーキテクト、マーベラス、三谷産業、ヤフー、ヤマハ、楽天 ほか

取得学位：情報科学（令和4年度修了者）

博士前期課程



博士後期課程

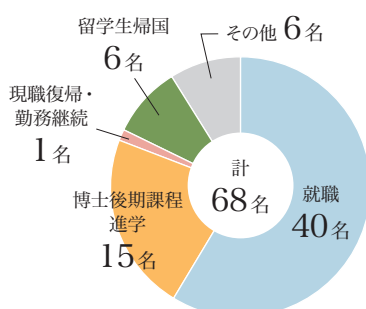


令和4年度までの修了者の主な就職先（博士前期課程）

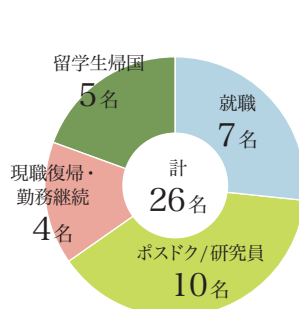
アクセンチュア、インターネットイニシアティブ、SRA、NEC、NTT、NTTコミュニケーションズ、NTTデータ、NTTドコモ、沖電気工業、オムロン、カプコン、キヤノン、京セラドキュメントソリューションズ、グローリー、KDDI、コナミデジタルエンタテインメント、コマツ、シャープ、スズキ、セイコーエプソン、セガ、セーレン、セコム、ソニー、ソフトバンク、大日本印刷、タイムインターメディア、中部電力、TIS、デンソー、東芝、凸版印刷、ニコン、日産自動車、日本信号、日本ヒューレット・パッカート、野村総合研究所、パナソニック、PFU、東日本旅客鉄道、日立Astemo、日立産業制御ソリューションズ、日立製作所、富士ソフト、富士通、北陸電力、本田技研工業、マツダ、三菱自動車工業、三菱電機、矢崎総業、ヤフー、ルネサスエレクトロニクス ほか

取得学位：材料科学（令和4年度修了者）

博士前期課程



博士後期課程



令和4年度までの修了者の主な就職先（博士前期課程）

旭化成、アズビル、アルバック、ウエスタンデジタル、カーリットホールディングス、京セラ、キョクシア、クアーズテック、コニカミノルタ、GSユアサ、ジーシー、シャープ、ジャパンディスプレイ、スズキ、スタンレー電気、住友重機械工業、セーレン、大日本印刷、太陽誘電、TDK、帝人、テルモ、デンソー、東京エレクトロン、東京電力、東芝、東芝デバイス&ストレージ、TOYO TIRE、凸版印刷、西日本旅客鉄道、日油、日華化学、日鉄テクノロジー、ニフコ、パナソニック、日立製作所、日立ハイテク、ブリヂストン、古河電気工業、マイクロンメモリジャパン、三菱自動車工業、三菱電機、三菱マテリアル、ミツ星ベルト、矢崎総業、LIXIL、リコー、ルネサスエレクトロニクス、ローム、YKK ほか

修了生インタビュー

Interview 1

株式会社 三菱総合研究所
公共DX本部 行政DX戦略グループ

瀧田 美聡 さん

北陸先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科博士前期課程（令和4年3月修了）

情報工学から知識科学へ、 そのプラスαがいまに生きています

JAISTを修了し、現在は公共分野のITコンサルティングの仕事に携わっています。お客様である中央省庁に向けて、戦略立案といった上流部分から、実際にシステムを構築するベンダーとお客様との間に立って調整を担う役割まで、システムの社会実装全体にわたる支援を行っています。直接的には学部時代の4年間で学んだ情報工学の知識が仕事に役立っていますが、同時に、大学院で身につけた「現場に目を向ける視点」が生かされていると日々感じています。

JAISTでは伊藤泰信先生の研究室に在籍し、文化人類学の調査手法であるエスノグラフィを用いた研究を行いました。これは、人が活動する現場であるフィールドに自ら入り込み、フィールドでの活動に参加しながら、明文化されていない「いわずもがな」の事象を拾い上げ、記述・分析して現場の課題やニーズを発掘する、現場密着型の質的調査とされるものです。実際に私が対象としたフィールドは、JAIST内の別の研究室であり、その研究室のメンバーの皆さんと共に過ごしながら普段の様子を調査させていただきました。研究の成果となる論文の発表では、直前まで伊藤先生から熱心なご指導を受け、結果、学内の優秀修了者に選出いただきました。JAISTでの研究を通して、現場の課題やニーズを見い出すためには、当事者の言葉をそのまま受け取るだけでなく、第三者の目で言葉にならない知を探り発見するという視点が重要であることを学び、それが現在の仕事においてもきちんと現場と向き合う姿勢として生きています。

理工学部の情報工学系から知識科学の領域へ進んだ私にとってもそうでしたが、JAISTは、分野を変えて学ぼうとする人にも間口が広く開かれており、新たな挑戦を受け入れてくれます。そして入学後は、まわりに様々なバックグラウンドを持つ人が集まり、異分野を学ぶ面白さや大変さを共有しながら研究に没頭できる素晴らしい環境が揃っています。



異分野への挑戦を受け容れ、 大切な出会いをくれたJAISTに感謝

近年、高度な計算能力を備えた量子コンピュータの話題がメディアを賑わしていますが、その普及が進んだ場合、ネット等で現在使用されている暗号が破られる恐れがあります。そこで、それに耐え得る「耐量子計算機暗号」の開発が急がれており、現在の私の職務は、そのような暗号の応用に関した研究となっています。入所早々に言われたのは、自分でやることを考え、自分で仕事を生み出すということ。仕事は自主性に任せられ、自由な反面、結果を求められる重圧を感じながら手探りの毎日を送っています。

大学院に進むにあたっては情報の領域、なかでもセキュリティに関わりたと思っていましたが、情報科学を専門的に学んできませんでした。そんな私にとって、専門分野外からの学生も歓迎してもらえるJAISTは大変ありがたい存在でした。充実した授業で基本的知識を体系的に学び、専門外から来たという不安を乗り越えられたと思います。

そしてもう一点、JAISTに感謝しているのは、藤崎英一郎先生と出会わせていただいたことです。先生は暗号の世界では世界的にも知られる研究者であり、私自身暗号にも興味がありましたが、それ以上に惹かれたのがお人柄。とてもお話しやすく、魅力的な方だと感じ、この先生の下で活動したいという思いを強くしました。藤崎研究室は完全に学生の自由に任せられ、上から指示されることはない一方、こちらが1を聞けば10返してもらえるくらい、求めれば応えてくれる研究室でした。情報領域が初めての私には研究の糸口を見つけるのにも苦慮しましたが、その中で思いついた研究テーマを提示したところ「これで論文を出そう」と認めていただき、とても大きな達成感を感じたことを憶えています。

JAISTは意欲をもって自主的に取り組める人にはとても有意義な大学院生活を実現でき、自分を鍛えられる場だと思います。2年間の経験は、いま私が仕事で求められている、自らで考え、生み出す力の基盤となり、しっかり生かされています。

Interview 2

NTT 社会情報研究所
情報保護技術研究プロジェクト

山村 和輝 さん

北陸先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科博士前期課程（令和3年3月修了）

Interview 3

筑波大学
数理物質系 物質工学域 助教

山口 世力 さん

北陸先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科博士後期課程（令和元年6月修了）

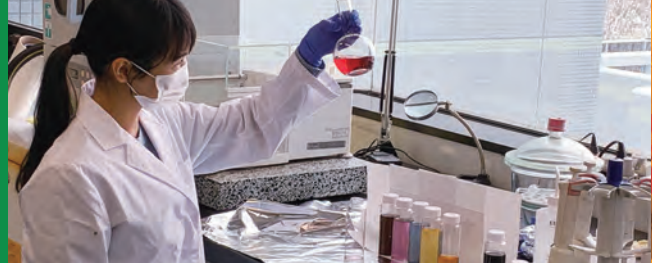
最先端の研究設備を駆使し、念願の研究に没頭した日々

高等専門学校（高専）の5年間の課程を修了し、さらに2年の専攻科を経てJAISTに入学しました。高専では材料工学科で金属加工の手法などに取り組んでいたのですが、卒業後は太陽電池のような電子デバイスの研究をしたいという思いがありました。一般的に専門を変えて大学院へ進むのは難しい面がありますが、その点JAISTでは文系の学生にも理系分野への門戸を開いているように、異分野からでも入りやすく、入学後も基礎を学ぶ授業が設けられていたものでスムーズに分野を移行できたと思います。

所属した大平研究室では、シリコン系太陽電池の製法や性能向上に関する研究を行っており、私自身は電圧がかかることで起きる太陽電池の劣化を材料科学的な見地から究明し、それを防ぐ方法を探るというテーマを追求しました。研究室では毎朝のミーティングで研究の進捗を報告し、土曜日には勉強会で論文をみんなで読むなど忙しく過ごしましたが、その日々の中で重要な知識を蓄え、鍛えられたと思います。JAISTは教授一人に対しての学生数が少なく、直接の指導を受けられる機会に恵まれていましたし、こんな場所に最先端の実験装置をこれほど揃えた大学院があるのかと驚く環境で、やろうと思えばかなりのことが学内でできるのは大きかったですね。在学中に自分がやりたかったデバイスの研究にしっかり取り組めたとともに、学会発表や論文執筆の経験を積み重ねて研究者としての基礎的な能力も身につけられたと感じています。

卒業後は大学の研究者として太陽電池の研究を継続し、現在の筑波大学ではさらにトランジスタや有機ELなど、対象とするデバイスを広げて、その劣化について分子、原子レベルでの解明を進めています。この研究は基礎的な物理学としての面白さとともに、デバイスの高品質化など産業に価値を生み出すものであり、その両面に関わりながら将来は自分の研究成果をもとに製品に実用化される技術を開発できればと考えています。

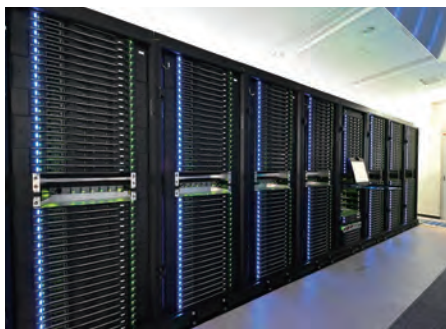
FOCUS 03 研究機器・設備



JAISTで使える代表的な研究機器・設備

JAISTのコンピュータ・ネットワーク・大型実験機器等は、教員及び技術職員が、保守・運営しています。機器に応じた講習を受けてライセンスを取得することで、JAISTの学生なら誰でも研究のために使用できます。

大規模並列計算機群



大規模並列計算機群とは、多数の計算専用のノードを並列接続することにより構成される科学技術計算のための専用コンピュータ群を指します。計算ノードは汎用高速ノードのほかに大規模メモリノードやGPUなど様々なアーキテクチャを有し、計算の用途に応じた使い分けが可能です。この大規模並列計算機群がナノテクノロジーからビッグデータ、機械学習など本学における最先端の研究・教育活動を支えています。

コミュニケーション記録装置



本装置はバッジ型をしており、相互に通信して相手の識別番号を時刻とともに記録します。グループワークなどでメンバー全員がバッジを装着すると、いつ・誰が・誰と話していたのか記録がとれるほか、Bluetoothビーコンを組み合わせることで、おおよその位置も記録することができます。対面での会話機会を記録し、分析することで組織のコミュニケーション状態を診断でき、メンバー間のコミュニケーションがうまくいっているか、リーダー的役割を果たしているのは誰かといったことが追跡できます。組織の活動をデータに基づいて緻密に分析することができます。

光学式モーションキャプチャ装置



本装置は16台のカメラから成り、3次元空間内での人間の運動を正確に追跡できます。本装置は運動解析のほか、収集した動作データを使ってアニメーションのキャラクターを動かすといった目的でも使えます。さらにヘッドマウントディスプレイと組み合わせた場合、利用者の動きに合わせてVR空間を操作できるので、多人数がVR空間で共同作業するようなコンテンツを作成できます。脳活動と視線を同時計測可能なヘッドマウントディスプレイが1基ありますので、VR空間内での人の挙動を脳活動・視線・動作という三つの観点から同時計測できます。

X線光電子分光装置 (XPS)



XPSは、試料の表面近傍に存在する元素の電子状態を精密に分析する手法です。金属、絶縁物、有機物等あらゆる元素を分析できます。さらに、分析対象となる原子周囲の電子状態によって起こる結合エネルギーの変化（化学シフト）を観測することで、化学結合状態を比較的容易に識別可能であることもXPSの特長と言えます。最小分析径は15 $\mu\text{m}\phi$ であり、また1 wt.%程度の元素濃度であれば測定可能になります。数回の講習（日本語/英語）を経て技術を習得すれば自分で測定評価できます。

集束イオンビーム (FIB) 加工装置

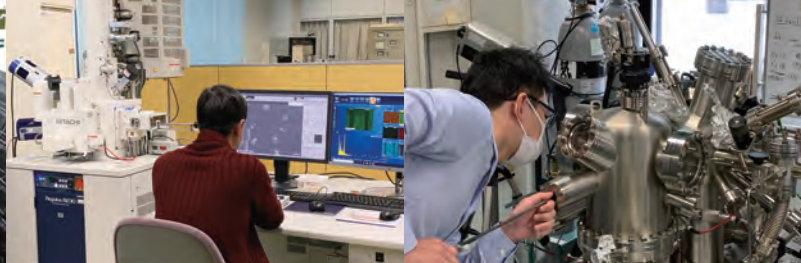


本装置では、集束イオンビームを照射した試料の表面から発生する二次電子を検出することにより、走査イオン顕微鏡 (SIM) 像と呼ばれる試料表面の画像を取得することができます。SIM像を観察しながら、試料の目標位置で微細加工を行うことが可能です。JAIST 所有のGaイオンビームを用いたFIB加工装置には、低加速FIBによる低ダメージ加工の機能があります。また、試料表面にタンガステンを蒸着するためのガス銃が付属しています。さらに、加工した微小な試料片を拾い上げる機構を有しています。JAISTでは本装置を用いて、透過電子顕微鏡の断面観察用の試料作製が行われています。

フーリエ変換イオンサイクロトロン共鳴質量分析装置 (FT-ICR MS)



極めて高い検出感度と分解能を誇る、超伝導磁石を用いたフーリエ変換型質量分析計です。この装置を用いることで、ピコ〜フェモトルオーダーの分子でも精密質量分析が可能です。試料中に含まれる成分の分子組成を決定することができ、未知試料の分析に力を発揮します。また、生体組織切片や材料中に含まれる目的分子の局在を可視化する、質量分析イメージングを行うこともできます。JAISTにはこの他、MALDI-TOF/TOF MSやGC-TOF MSなど多様な質量分析装置が揃っています。研究内容に沿って低分子化合物から高分子材料、タンパク質などの生体分子まで、物性の異なる様々な試料に対応することができます。



脳血流活性度検知装置



本装置は10台の小型光トポグラフィ装置から成り、10人の脳活動を同時計測可能です。たとえばグループワーク時に参加者に装着してもらくと、各人の集中状態がリアルタイムに把握できます。コンサートなどのコンテンツ評価ができるほか、より効果的な講義やセミナーの設計などに活用できるでしょう。コミュニケーション記録装置と組み合わせると交流と脳活動の相関などが分析できます。脳機能研究の対象を個人からグループへと広げる可能性を秘めています。

核磁気共鳴装置 (NMR)



NMRでは、強磁場にさらされた原子核のスピンによる磁気共鳴スペクトルを測定します。共鳴周波数は磁場の強さと核種によってほぼ決まりますが、核のまわりの状況を反映した少しのずれ（化学シフト）から原子配置や電子構造などに関する情報が得られるため、有機化合物、高分子化合物、タンパク質などの構造解析にはなくてはならないものです。JAISTには、プロトンの共鳴周波数が800、500及び2台の400MHzの装置が揃っており、学生は500MHz以下の装置を使用できます。

透過電子顕微鏡 (TEM)



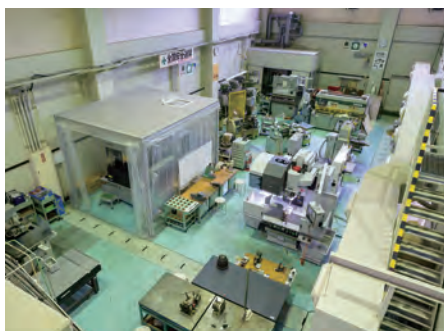
TEMとは、電子を高速に加速して試料薄片を透過させ、電子レンズを用いて拡大し結像させることで、物質の微細な構造を観察する装置です。加速された電子の波長は可視光の波長より非常に短いため、光学顕微鏡より高い分解能で観察することが可能です。JAISTには加速電圧が200kV及び100kVのものがあり、通常、学生が使用できる100kVのTEMは、分解能が0.2nm（格子像）、0.36nm（粒子像）です。微細な観察領域に含まれる元素を同定する装置も備わっています。

超伝導量子干渉型磁束計(SQUID)



ジョセフソン接合を有する超伝導体リングから構成される超伝導量子干渉素子（SQUID）は、超伝導体の量子干渉効果により、リングを貫く磁束量子の増減を電流変化として検出できるものです。このSQUIDを磁束計として用いることで、本装置では地球磁場の1万分の1の微小な磁束変化を高精度に検出することができ、様々な試料の磁化（磁化率）について測定することができます。また、コンピュータ上で簡単な測定シーケンスを組めば、磁場や温度の制御、測定データ取得、ヘリウムガスの液化・充填を全自動で行うことができます。磁性薄膜や磁性ナノ粒子など新材料分析や、それらを利用したスピントロニクス素子の開発に活用されています。

工作室



工作室は、専門スタッフの機械加工技術・電気電子工作技術・3次元造形技術を用いて、利用者のニーズに合わせた部品や装置の設計・開発・試作を行うことで先端的研究をサポートします。また、工作室で工作機械を利用するための個別工作講習は、スタッフと相談の上いつでも受講することが可能です。さらに、工作室 web サイトでは、機械設計図面の作図知識や、3D-CAD (Computer-Aided Design、コンピュータ支援設計) の使用方法などの習得を支援するコンテンツを用意しており、独創的な研究を行うためのモノづくりの要素技術を養うことができます。

遠隔講義/会議システム



距離的に離れた地点にいる学内外の研究者や学生と簡単に講義や会議を行うことができるシステムです。自拠点の映像・音声を収録するカメラ・マイク、他拠点の映像・音声の出力、アナログ／デジタル信号変換やデジタル信号の送受信を行うコーデックといった機器を比較的小さな筐体にまとめた専用機器となります。映像・音声の送受信にあたってはインターネットベースのリアルタイム通信に関する標準規格に対応しており、Full HDの高品質なカメラ映像に対応したTV会議を実現することができます。また、同様の機能をPC上で利用できるWeb会議サービスもサポートしており、自由に利用することができます。

JAISTの情報環境

JAISTでは、最先端の研究を組織的に遂行するため、高度で先進的な情報環境を提供しています。

情報社会基盤研究センターおよび遠隔教育研究イノベーションセンターが情報環境をサポートしています

JAISTは、ネットワークでつながれた様々な機器で構成されるシステム全体を情報環境として捉えています。情報環境は、情報の生成・蓄積・利用など情報に関わるあらゆる局面を支援する総合システムです。情報社会基盤研究センターと遠隔教育研究イノベーションセンターが連携し、JAISTの情報環境のすべてを提供・管理・運用し、以下のサポートを行っています。

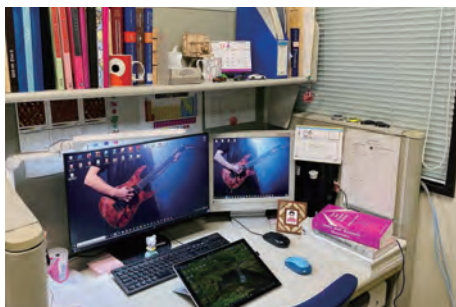
1 超高速学内LAN

JAISTの学内LANは、10Gbpsの高速バックボーンスイッチと各棟各フロアに置かれたフロアスイッチにより構成された、低遅延・広帯域のネットワークです。これにより各研究室の情報端末から、インターネットや学内の各種サーバ群、大規模並列計算機群へ快適なアクセスができます。

東京サテライトとは10Gbpsの高速回線で接続されており、石川キャンパスと同じ情報環境が利用できます。また、学内のほぼ全域で無線LAN (IEEE802.11ac) サービスを提供しており、研究科棟の一部エリアでは最新のWi-Fi 6 (IEEE 802.11ax) も利用できます。

2 Windows/UNIX環境

Windows環境 (Windows 10) とUNIX環境 (Linux) が整備されており、自由に利用できます。Windows環境ではMicrosoft Officeなど様々なアプリケーションを利用できます。UNIX環境でも各種言語の開発環境や論文作成を支援する様々なアプリケーションを提供しています。Windows/UNIX環境を用いて、実習やプロトタイピングなどを行います。これらの環境は学生向け貸与端末からはもちろんのこと、個人用/研究用PCやタブレット端末からも利用できます。



3 貸与端末

石川キャンパス正規学生の全希望者に対してタブレットPCを貸与しています。このタブレットPCは、電子メールの送受信や講義アーカイブへのアクセス、オンラインミーティングへの参加等の基本的活動のための端末としてだけでなく、JAISTクラウド (Windows/UNIX環境) や大規模並列計算機群、ファイルサーバ群など、本学の高度な情報環境へアクセスするための「窓」として利用できます。

4 データストレージ

教育・研究・事務処理などで生成・蓄積・利用される情報を収容する大容量・高速のファイルサーバ群を整備しています。Windows環境/UNIX環境のデータは集中的にこのファイルサーバ群に保存されるため、学内のあらゆる場所から自由に参照できます。この保存されたデータのバックアップは自動的に行われるため、ユーザは安心して研究に専念できます。

また、簡単な操作でデータの保存、他者とのデータの共有が行えるクラウドストレージサービスがあります。

5 電子メール

研究活動に電子メールの利用は不可欠です。JAISTでは大容量のメールサーバを整備しており、1人あたり50GBのメールボックスを提供しています。電子メールを読む方法としてPOPの他にIMAPやWebメールをサポートしており、複数の環境から電子メールの送受信を快適に行える環境になっています。また、PC以外にも、スマートフォン、タブレット端末等からもアクセスできます。



6 ソフトウェア

教育・研究活動を支援するために各種ソフトウェアを提供しています。これらのソフトウェアは、共同利用端末、学生・教職員が利用する端末で利用することができます。

■主なソフトウェア

- 文章作成・編集ソフトウェア
Microsoft 365
Overleaf(LaTeX) など
- 技術計算ソフトウェア
Matlab
Mathematica
Materials Studio など
- オンラインミーティング
Cisco Webex

7 大規模計算機環境

大規模な科学技術計算を実行し、大量のデータを同時に扱うことのできる計算環境として、様々なアーキテクチャの計算ノードからなる大規模計算機群を備え、各種商用/非商用の計算用ソフトウェアからコンテナまで、幅広いリクエストに対応できる先進的な計算機環境を提供しています。JAISTの構成員は誰でも利用できます。

8 プリンタ

教育・研究活動で必要となるコピー、プリント、スキャンなどの入出力環境を全学的なサービスとして提供しており、研究室、共同利用スペースなどに複合機が配備されています。また、大判プリンタや、製本機能を有したプリンタを情報社会基盤研究センターユーザルームで利用できます。

9 ユーザルーム

24 時間利用できるユーザルームを設置しています。Windows 環境/UNIX 環境を利用するための端末の他に、最大 60 インチ幅で印刷できる大判プリンタ、フルカラーでくみ製本のできる複合機、簡易製本機など特殊な印刷関連機器も提供しています。

10 学生寄宿舍のネットワーク

学生寄宿舍の各部屋まで、カテゴリ 5/6 対応イーサネットケーブルが配線されています。最大 1 Gbps の速度での学内 LAN への接続が可能となり、自室での研究活動に活用できます。

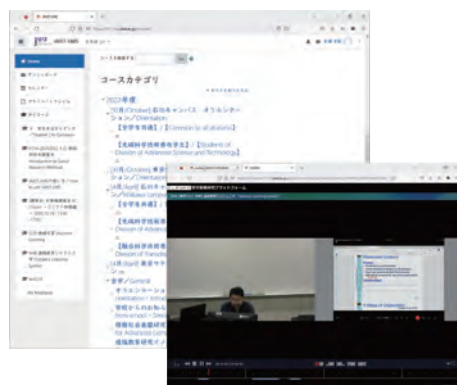
11 セキュリティ

JAIST では学内 LAN に PC を接続する場合にはアンチウィルスソフトウェアをインストールすることを義務付けています。個人用 PC でも利用できる Windows/macOS 用アンチウィルスソフトウェアを情報社会基盤研究センターの Web ページからダウンロード、インストールして在学中無料で利用できます。学内 LAN 上にセキュリティ上問題のあるパソコンがないか、複数のシステムで検出しています。

また、国立情報学研究所 (NII) の UPKI 電子証明書発行サービスを学生利用者等に提供しています。電子証明書管理システムから電子証明書を入手し、無線 LAN の接続や電子メールの S/MIME に利用できます。

12 講義アーカイブシステム

講義室で行われた講義を自動で収録（アーカイブ）し、JAIST-LMS からいつでも（オンデマンド）視聴できるシステムです。過去年度のアーカイブ講義も視聴できるため、講義の予習・復習に活用することができます。



FOCUS 04 国際交流

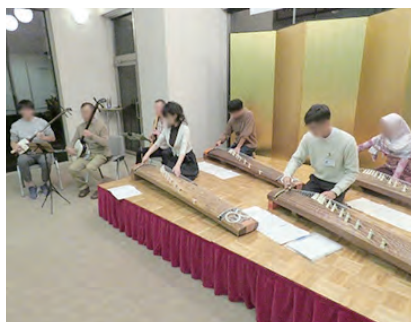


積極的な国際交流により、留学生も多数在籍しており、日常的に語学能力や国際感覚が身につく環境を提供しています。

学術交流協定

世界をリードする研究を推進して、国際社会に貢献できる人材を育成するため、海外の大学や研究機関との人的交流及び共同研究を通して、積極的に国際的な学術交流に取り組んでいます。

令和5年4月1日現在 25カ国1地域・132機関と学術交流協定を締結しています。





JAISTでは、50%以上の学生が各種奨学金等の修学サポートを受けています。

1

JAIST 学生給付奨学金をはじめとする JAIST 独自の奨学支援制度

JAISTでは、学生が経済的に自立した大学院生活をおくることができるように、給付型奨学金をはじめとする様々な独自の奨学制度を用意しています。

1 JAIST 学生給付奨学金（給付型奨学金：原則返済不要）

優秀な学生に対して支給する学生給付奨学金には、教育プログラム等に応じて様々な種類があります。

種 類		選 抜	給付人数	給付総額		給付期間
				博士前期課程在籍時	博士後期課程在籍時	
博士前期課程奨学金	特別採用2年次	一般選抜、随時特別選抜、推薦入学特別選抜	学業成績上位10%以内	授業料の全額相当	—	1年 (2年次)
	一般採用2年次		学業成績上位25%以内	授業料の半額相当	—	

■ 令和4年度採用実績

種 類 等		博士前期課程	博士後期課程
博士前期課程奨学金	特別採用2年次	25名	—
	一般採用2年次	36名	—

2 北陸先端科学技術大学院大学Uターン奨励金（返済不要）

高校又は高専卒業時に、能美市、小松市又は加賀市に居住した者が、JAIST進学のため、県外から3市のいずれかにUターンをして居住することとなる場合に、Uターン奨励金として、月額5万円を毎月支給します。

■ 受給実績

区 分	能美市	小松市	加賀市	計
令和4年度	1名	1名	0名	2名

3 北陸先端科学技術大学院大学博士論文研究基礎力審査奨励金（返済不要）

5Dプログラムの学生のうち本学が実施する博士論文研究基礎力審査に合格した者であって、博士後期課程に進学する者に、進学後から月額3万円を毎月支給します。



4 JAISTでの雇用型奨学金（返済不要）

JAISTでTA、UA、RA、LAとして雇用され給与を受けることもできます。給与は時期、在籍する課程等により異なりますが、採用された場合は月額で数万円から、最大で15万円程度受けることができます。

また、留学生のためのチューター制度、学生相談員、見学者学内案内、各種大学イベント補助者など様々な学内での雇用による経済支援制度があります。

TA

Teaching Assistantの略で、博士後期課程と博士前期課程の在学生在が対象です。博士前期課程の学生に対し、教員の指導の下、授業の補助業務を行います。

UA

University Assistantの略で、博士後期課程学生（社会人コース学生等を除く。）の在学生のうち、希望する学生全員が採用され、教員の指導の下、研究補助業務を行います。当該業務の従事時間に応じ、年間最大で60万円程度受けることができます。

RA

Research Assistantの略で、博士後期課程の在学生在が対象です。教員の指導の下、実習、実験の補助を行います。

LA

Laboratory Assistantの略で、博士前期課程の在学生在が対象です。研究科等が設定した課題の研究活動に必要な補助業務を行います。

5 入学科・授業料の減免制度等

入学科免除制度

経済的理由により、入学科の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀であると認められる者について、入学科の全額又は半額を免除する制度です（国費留学生、企業派遣学生等は対象外）。申請者の中から選考の上、特に生活困窮度の高い順に入学科免除者を決定します。

入学科徴収猶予制度

経済的理由により、納付期限までに納付が困難であり、かつ学業成績が優秀であると認められる者について、入学科の徴収を猶予する制度です（4月入学の場合、6月の最終業務日まで猶予）。申請者の中から選考の上、生活困窮度の高い順に入学科徴収猶予者を決定します。

授業料免除制度

経済的理由による授業料免除制度

経済的理由により、授業料の納付が困難であり、かつ学業成績が優秀であると認められる者について、授業料の全額又は半額を免除する制度です（国費留学生、企業派遣学生等は対象外）。申請者の中から選考の上、特に生活困窮度の高い順に授業料免除者を決定します。

Maプログラムによる授業料免除制度

Maプログラム（専攻分野変更者等を対象とした基礎教育を重視して行う2年以上3年以内の博士前期課程の教育プログラム）において、2年を超えて在学する学生に対して、2年を超える在学期間に係る授業料を全額免除します。

区 分	入学科	授業料
博士前期課程	282,000円	（前・後期各）267,900円
博士後期課程		（年 額）535,800円



6 JAIST 支援財団からの支援

JAIST 支援財団からの助成金、奨励があります。なお、助成が終了後、北陸 3 県の企業等に 2 年間以上継続して就職した場合は、返還免除となります。

■令和 4 年度受給実績

種 類 等	博士前期課程	博士後期課程	計
JAIST 支援財団奨学助成金（月額／ 30,000 円貸与）	2 名	0 名	2 名
JAIST 支援財団奨学助成金（月額／ 50,000 円給付）	1 名	0 名	1 名
計	3 名	0 名	3 名

7 学生貸付金制度

病気、天災その他の理由による困窮度が一時的に高まり、かつ、学業及び生活の維持がきわめて困難であるとき無利子で貸付けます。

■利用実績 (令和 4 年度実績)

申請件数	採択件数	合計金額 (千円)
0	0	0

8 その他の経済支援

キャリア形成活動費支援として、企業説明会・セミナーや企業等の採用試験等のキャリア形成活動に係る交通費等を助成します。また、国内外での活動を支援するため、博士後期課程学生を対象とした国際会議・国際学会等での研究発表や国内外の機関での研究留学・インターンシップ等への費用助成制度があります。

■北陸先端科学技術大学院大学支援財団学生研究奨励金

区 分	申請件数	採択件数	平均支給額 (千円)	合計金額 (千円)
令和 4 年度	34	34	123	4,168

■研究留学助成制度 (SD・5D・3Dプログラム) (令和 4 年度実績)

区 分	派遣先	派遣件数
国 外	University of Prince Edward Island (カナダ)	1
国 内	東京工業大学	1



2

日本学生支援機構奨学金（貸与） [URL : <https://www.jasso.go.jp/>]

■ 応募資格

人物・学業成績ともに優秀で、前年の年間収入額（定職、アルバイトによる収入、両親・配偶者からの援助、奨学金などのあらゆる収入の合計）が一定基準以下であり、また、申込時現在の収入で推算した今年の収入見込合計金額が、収入基準額以下であれば応募可能です。

■ 返還方法

貸与終了の翌月から数えて7か月目の月（3月に貸与終了した場合は10月）から返還。第一種（無利子）奨学金貸与者には、特に優れた業績を挙げた者に対する返還免除制度があります。

■ 第二種奨学金

第二種は利子付きですが、在学中は無利子、利子算定方法として利率固定式を選択した場合、返済開始時の市場金利を元に金利を定め（上限金利は3%に固定しています）返還時の元利合計が計算され、元利均等で返還していきます。また、返済猶予制度があり猶予期間中は無利子です。

■ 収入基準額

種 類 等	博士前期課程	博士後期課程
第一種（無利子）	299 万円	340 万円
第二種（有利子）	536 万円	718 万円
第一種と第二種の併用	284 万円	299 万円

■ 貸与金額・貸与期間

区 分		博士前期課程	博士後期課程
貸与月額	第一種（無利子）	5 万円、8 万 8 千円から選択	8 万円、12 万 2 千円から選択
	第二種（有利子）	5 万円、8 万円、10 万円、13 万円、15 万円から選択	
貸与期間		当該課程の標準修業年限以内	

■ 日本学生支援機構奨学金 採用率（令和4年度在学者）

区 分	第一種			第二種		
	申請数	採用数	採用率	申請数	採用数	採用率
博士前期課程	62	62	100	13	13	100
博士後期課程	7	7	100	0	0	-
計	69	69	100	13	13	100



3

未来創造イノベーション研究者支援プログラム JAIST 次世代特別研究員

この支援プログラムは、令和3年度国立研究開発法人科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の採択を受け、挑戦的・融合的な研究を通じて我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な志ある博士後期課程学生を「JAIST次世代特別研究員」として採用し、研究奨励費及び研究費を支給する制度です。

区分		内容
プロジェクト期間		令和3年9月～令和8年9月
支援人数		各学年10名
財政支援	研究奨励費	月額20万円
	研究費	1年次及び3年次：40万円、2年次：70万円

4

日本学術振興会（JSPS） 特別研究員（DC1、DC2、PD）

優れた若手研究者に、自由な発想のもと主体的に研究課題を選び、研究に専念できる機会を研究生生活の初期において与えるため、特別研究員として採用し、研究奨励金を支給する制度です。

博士後期課程在学者及び博士後期課程修了者で、優れた研究能力を有し、大学あるいは研究機関で研究に専念することを希望する者が採用されます。

	応募資格	採用期間	研究奨励金
DC1（博士後期課程1年次在学者）	博士前期課程2年次在学者	3年間	20万円／月額
DC2（博士後期課程2・3年次在学者）	博士後期課程1・2年次在学者	2年間	20万円／月額
PD（博士学位取得者）	博士後期課程3年次在学者*	3年間	36.2万円／月額

※特別研究員（PD）採用開始日時点で博士の学位取得後5年未満の者（申請時においては学位取得見込みでも良い）に該当する場合に応募資格を有します。詳細は、日本学術振興会が公表している募集要項を確認してください。

5

本学を対象とした他団体からの奨学金（留学生）

留学生対象

令和4年度受給実績

種 類 等	博士前期課程	博士後期課程	研究生 特別研究学生も含む	計
日本政府奨学金〈国費外国人留学生〉	24名	37名	4名	65名
学習奨励費（月額／48,000円）	16名	10名	0名	26名
石川県私費外国人留学生奨学金（月額／20,000円）	26名	1名	1名	28名
三谷育英会（月額／53,000円）	0名	3名	0名	3名
澁谷学術文化スポーツ振興財団奨学金（年額／500,000円）	2名	0名	0名	2名
ロータリー米山記念奨学会（月額／140,000円）	2名	1名	0名	3名
KDDI財団外国人留学生助成（月額／100,000円）	0名	1名	0名	1名
ドコモ留学生奨学金（月額／120,000円）	1名	0名	0名	1名
井内アジア留学生記念財団奨学金（月額／30,000円）	1名	4名	0名	5名
平和中島財団外国人留学生奨学金（月額／100,000円）	0名	1名	0名	1名

※外国の政府や機関からの受給を除く。

Campus Life

学生寄宿舍等 ————— P.36

福利厚生施設 ————— P.37

生活シミュレーション ————— P.38

附属図書館 ————— P.39

JAIST 周辺MAP ————— P.41

キャンパスライフ

学生寄宿舍等

学生寄宿舍及びJAIST HOUSEを含む
大学敷地内は完全禁煙です。

学生寄宿舍

学生寄宿舍は、キャンパス内にあります。鉄筋コンクリート5階建の建物8棟。単身室533室（そのうち、女性専用居室123室）、夫婦室33室、家族室33室、計599室があります。

各部屋から学内LANに接続が、またBBC、CNNの視聴が可能です。駐車場は、大学を通じて申し込むことで利用できます（車庫証明も取得可能）。

単身室（533室）

■居室：ワンルーム

■設備：

居室：ミニキッチン、トイレ、エアコン（冷暖房）

共用：ユニットバス（各階に3～4室）、ランドリースペース、
集会室、和室、談話室

■家具：高床式ベッド、机、椅子、本棚、 下駄箱、クローゼット、冷蔵庫

寄宿料等

- ① 寄宿料：12,540円／月
- ② 水道・電気・ガス料、居室の使用分
- ③ 前納金※ 40,000円

月額／1万3千円～1万6千円（①+②）



キャンパス内に立地（学生寄宿舍）



学生寄宿舍単身室



共用のユニットバス、ランドリースペース
（学生寄宿舍単身室用）



JAIST HOUSE単身室

夫婦室（33室）

■居室：1LDK

■設備：

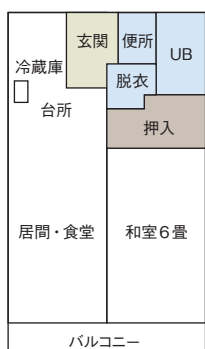
居室：キッチン、浴室、トイレ、
エアコン（冷暖房）、ランドリースペース
共用：集会室、和室

■家具：机、椅子、本棚、下駄箱、洋服ダンス、 洗濯機、乾燥機、冷蔵庫、 食堂用テーブル、食堂用椅子（2脚）

寄宿料等

- ① 寄宿料：14,920円／月
- ② 水道・電気・ガス料、居室の使用分
- ③ 前納金※ 50,000円

月額／1万7千円～2万円（①+②）



家族室（33室）

■居室：2LDK

■設備：

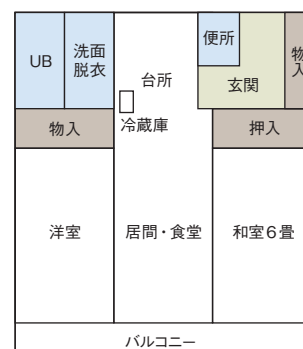
居室：キッチン、浴室、
トイレ、エアコン（冷暖房）、
ランドリースペース
共用：集会室、和室

■家具：机、椅子、本棚、下駄箱、 洋服ダンス、洗濯機、乾燥機、 冷蔵庫、食堂用テーブル、 食堂用椅子（4脚）

寄宿料等

- ① 寄宿料：17,220円／月
- ② 水道・電気・ガス料、居室の使用分
- ③ 前納金※ 60,000円

月額／2万5千円前後（①+②）



JAIST HOUSE（単身室・30室）

JAIST HOUSEは、他の学生寄宿舍と同じくキャンパス内にあります。軽量鉄骨造スレートぶき2階建ての建物で3棟。3棟とも単身用で計30室があります。各部屋から学内LANに接続が可能です。駐車場は、大学を通じて申し込むことで利用できます（車庫証明も取得可能）。

■居室：ワンルーム

■設備：

居室：キッチン、ユニットバス、下駄箱、TVインターホンなど
共用：掲示板（各棟各階）

■家具：ベッド、机、椅子、本棚、更衣ロッカー、洗濯機、電子レンジ、 エアコン、冷蔵庫、遮光カーテン、物干し竿、延長コード

寄宿料等

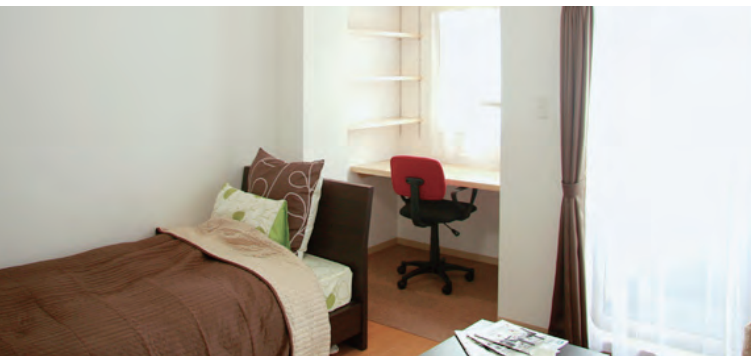
- ① 寄宿料：16,350円／月
- ② 水道・電気・ガス料、居室の使用分
- ③ 前納金※ 40,000円

月額／2万5千円前後（①+②）

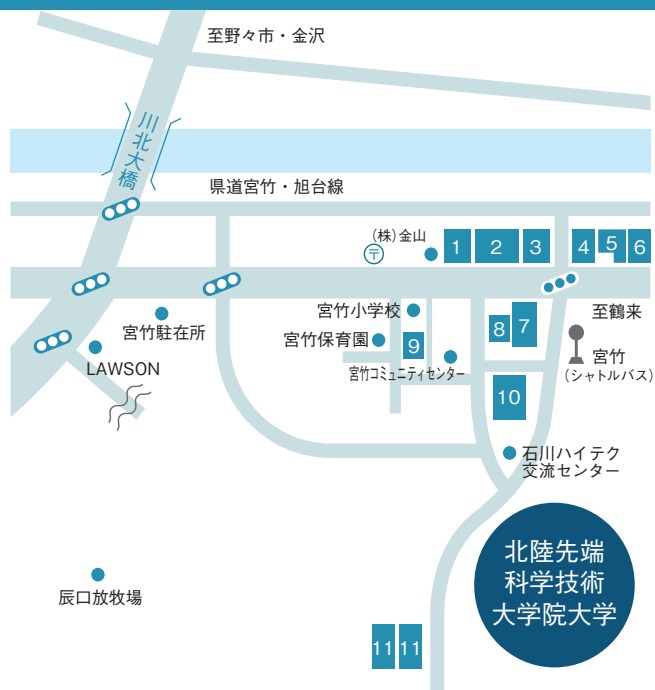


※ 前納金は退去時に清掃費・修繕費等を差し引いて返金します。

JAIST周辺には多数の民間のアパートがあります。アパートには、エアコン、電熱器又はガス調理台などが準備されているほか、インターネット接続が無料の物件もあります。家賃、共益費、駐車料金等を合わせると概ね30,000円～46,000円になります。



- | | | |
|-----------------|--------------|-------------|
| 1 ブランドル prendre | 5 あぶに〜る | 9 Rainbow |
| 2 カンパーニュ | 6 グランディール | 10 桜館 さくらかん |
| 3 リトル・ガーデン | 7 プレジール・クレスト | 11 リトル・ビレッジ |
| 4 サンティエ | 8 アヴァンセ | |



保健管理センター



体育館・グラウンド



テニスコート・トレーニングルーム

A photograph showing two men playing tennis on an outdoor court. The man in the foreground is wearing a white shirt and light-colored pants, holding a tennis racket. The man in the background is wearing a red shirt and dark pants, also holding a racket. The court is green and red, with a green fence and mountains in the background.

食堂・JAIST CAFE



売店（ニューヤマザキデパートストア北陸先端大学店）



自動販売機コーナー

生活シミュレーション

研究を楽しみ尽くし、 未来のパイオニアをめざそう！



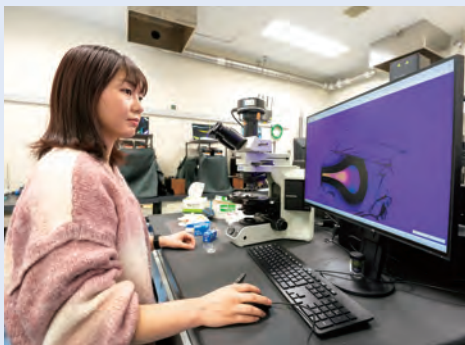
博士前期課程 桶葎研究室（サステイナブルイノベーション研究領域）
萩原 礼奈 さん

「大学院のドクター課程に進み、現在の研究をもっと深めたい」という志を抱き、大学卒業前の私は進学先を模索していました。大学院を選ぶ条件は、研究環境が整っていること、そしてドクターが大勢在籍していることでした。進学の相談に乗ってくださった先生から「ドクターが少ない環境はつらいよ」と助言を受けたからです。たぶん、同じ方向を見つめている人が少ないのは孤独だよ、そんな意味だったのでしょうか。また、JAISTの入学試験は、学位研究のプレゼンテーションがメインである点も、本学選択の理由でした。

現在、ソフトマテリアルについて研究している桶葎研究室に在籍し、桶葎先生が発見した界面分割現象を研究対象にしています。この現象を観察し、その機序から数理モデリングを導くことに取り組んでいます。

JAISTの魅力は、学部生がいない分、学生は丁寧な指導を受けられること。多少の不便はあるものの、里山という立地が、研究に専念できる場を与えてくれること。研究を思い切り楽しみたい私には最適です。また、学生寄宿舎は研究室から歩いて5分という至近距離。入居する前は、ユニットバスとランドリーが共用と聞いて懸念していましたが、1フロアに4つも設置されているため、不都合を感じたことはありません。さらに、桶葎先生の研究が創発事業に採択されたことで、博士後期課程に進む学生には学資の援助があります。学生が研究に没頭できるよう配慮を尽くした学問機関、それがJAISTだと思います。

1日のタイムスケジュール

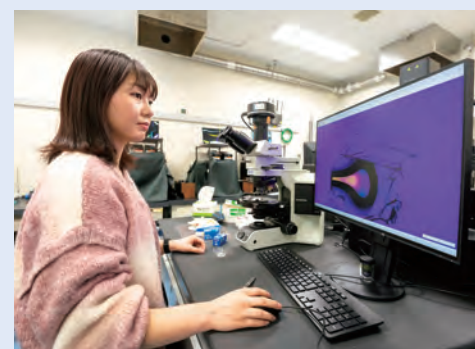
9	9:00	研究室に入る	
10			
11			
12	12:00	学生寄宿舎にもどって昼食	
13			
14			
15			
16			
17			
18	18:00	週1回ずつ、JAISTダンスクラブと茶道部、小松市にあるクラシックバレエ教室へ	
19		※部活やレッスンのない日は	
20		18:00～ 夕食 19:00～ 研究室	
21	21:00	夕食	
22	22:00	再び研究室へ	

[家計簿]

住居：学生寄宿舎

■主な生活費

食	費	30,000円
居住・光熱費		15,000円
通信費		3,000円
合	計	48,000円



界面分割現象でできた膜を顕微鏡で観察。写真撮影も行う

附属図書館

附属図書館のコンセプト

附属図書館は、「24時間開館」「研究図書館」「電子図書館」の3つをキーワードとして運営されており、アクセシビリティや蔵書構成において大学院大学にふさわしいクオリティを備えた研究図書館を実現しています。

〔 24時間開館 〕

研究活動が終日であることに合わせて、附属図書館も24時間年中無休で開館しており、資料が必要な時にいつでも自由に閲覧できる全面開架方式を採用しています。貸出についても、自動貸出装置を導入しているため、24時間可能です。

〔 研究図書館 〕

先端科学技術研究を力強くサポートする研究図書館として、高度に専門的・先端的な学術資料および情報を重点的に収集しています。

〔 電子図書館 〕

電子的学術資料の充実を図っており、利用者は整備された学内情報ネットワーク環境を活用して、蔵書目録はもちろん、電子ジャーナルや電子ブック、各種データベース等を利用することが可能です。

利用方法の特徴

閲覧

24時間、年中無休で開館しています。いつでも自由に閲覧できるよう、全面開架方式をとっています。附属図書館の入館ゲートは、学生証で通過できます。

貸出

貸出はセルフサービスです。自動貸出装置を設置しているので、いつでも貸出可能です。貸出冊数制限はありません。

オンラインサービス

最先端の研究を支えるために、研究室の自席のパソコン、あるいは自宅のパソコンから、電子図書館機能としての利用も可能です。蔵書やデータベースの検索、電子ジャーナルの閲覧、文献複写依頼や図書の借用依頼、図書の購入リクエストなど、研究をサポートする様々なサービスを利用できます。

1 電子ジャーナル・電子ブック

電子ジャーナル約7,100タイトルを導入しており、学術雑誌、学会論文誌、プロシーディングの全文が無料で入手できます。また、SpringerのLNCSシリーズをはじめとした電子ブックも提供しています。電子ブックのタイトルは随時追加しています。

2 各種データベース

Scopus（全分野の抄録・引用文献データベース）およびIEL Online（IEEE・IETのフルテキストデータベース）を無料で利用できます。

3 蔵書検索と貸出予約

附属図書館内の蔵書はもちろん、研究室配架の図書、本学以外の大学図書館の蔵書が検索できます。貸出中の図書については貸出予約、研究室配架の図書については借用依頼ができます。

4 学外の図書の借用

JAIST にはない図書は、大学図書館間の連携（ILL）により、全国の大学図書館から借用が可能です。郵送料のみの負担で借用できます。

5 石川県内公共図書館の図書の借用

石川県立図書館や県内の公共図書館の蔵書を無料で借用できます。蔵書の検索には、石川県内図書館横断検索システムが利用できます。

6 専門図書購入のリクエスト

学習・研究に必要な図書を、一人につき年間7冊までリクエストすることができます。





グループ学習スペース



グループ学習スペース



J-BEANS

JAIST 学術研究成果リポジトリ

リポジトリとは、容器・貯蔵庫・倉庫、集積所などの意味を持つ言葉です。JAISTの研究者や学生達によって生み出された成果を電子的な形態で収集・蓄積・保存し、無料で学内外に公開しています。博士論文、修士論文、リサーチレポートを含みます。キーワードに関連する論文や教員を容易に検索できる機能があるので、研究の応用範囲を調べたり、副テーマを探す際に利用できます。

JAIST Press

教育を円滑に推進すること並びに研究の成果を普及し、及びその活用を促進することを目的とし、附属図書館では学術図書の出版を行っています。JAISTの知的刊行の担い手として学術図書を刊行するのがJAIST Pressです。出版物の販売はインターネットによるオンデマンド方式で行っています。

「J-BEANS (ラーニング・コモンズ)」

ラーニング・コモンズとは、「学生が共に学ぶ共有の場」という意味で、グループ学習やディスカッションなど、誰でも自由に利用できる空間です。軽い飲食もOKです。学生が自らアイデアを生み出し、伸ばしていく場になるよう、発芽し空に向かって伸びていく豆をイメージして、「J-BEANS (ジェイ ビーンズ)」(JAIST - Brainstorming, crEAtion, iNnovation, Space)と名付けられました。

JAIST 周辺MAP



金沢駅（金沢市）

おもてなしの心を表した「もてなしドーム」、伝統芸能に使われる鼓をイメージした「鼓門」は金沢のシンボルとして親しまれています。



タテマチ・片町・香林坊（金沢市）

ファッションや雑貨、飲食店などさまざまなショップが軒を連ねる賑やかな通り。若者達の流行発信エリア。



ひがし茶屋街（金沢市）

浅野川大橋近く、今も昔のおもかげを残したお茶屋建の古い家や料亭が軒を連ねています。



金沢21世紀美術館（金沢市）

コンテンポラリーアートの殿堂として金沢中心地に誕生した現代美術館。特徴的な建物は世界中からも注目を集めています。



兼六園・金沢城公園（金沢市）

江戸時代の回遊林泉式庭園の特徴を今日に残す代表的名園で、日本の三名園と称されています。



入試について

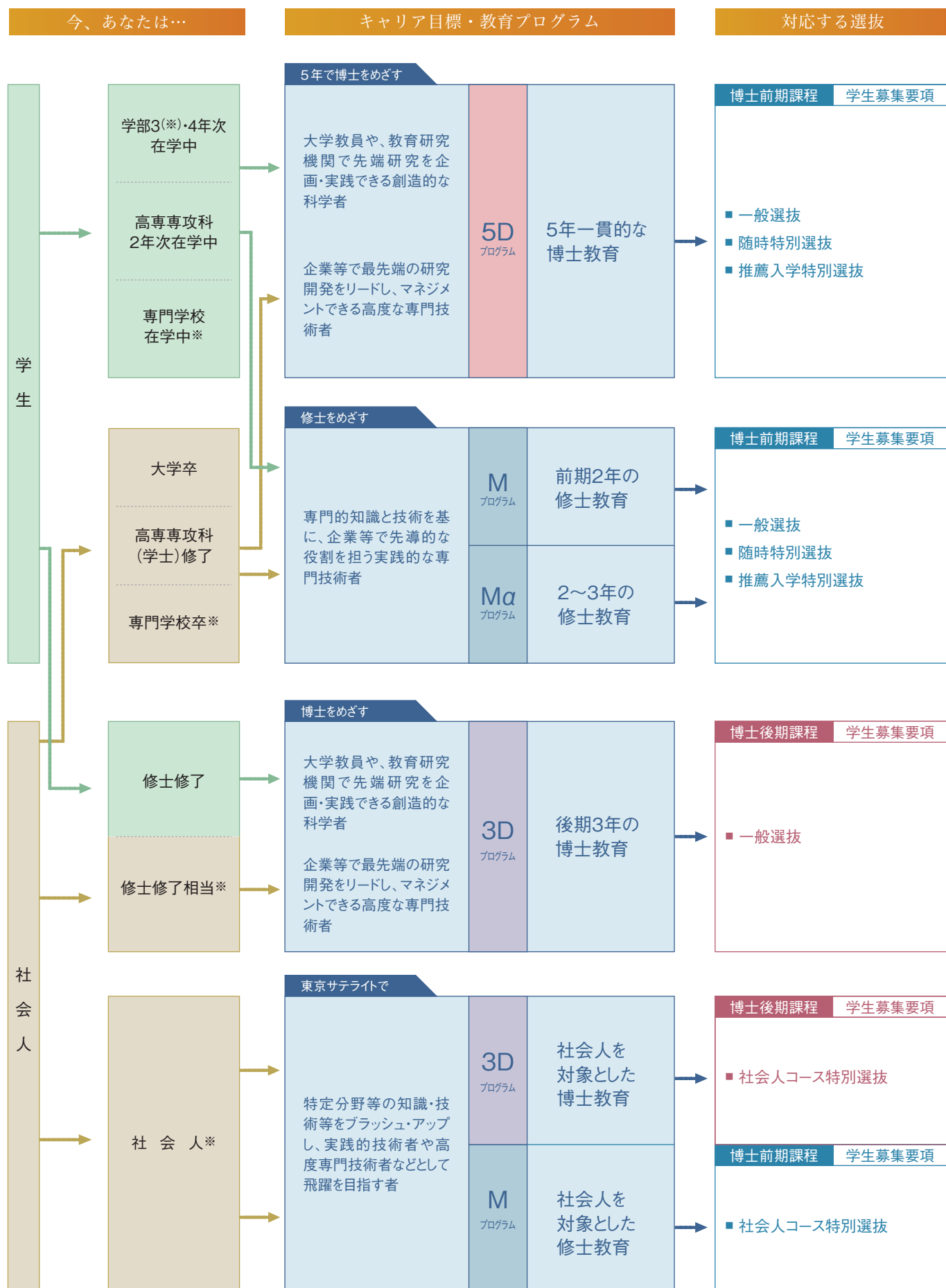
キャリア目標・教育プログラムと選抜試験 P.44

入試日程 ————— P.45

学生データ ————— P.46

イベント情報 ————— P.47

キャリア目標・教育プログラムと選抜試験



※入学資格審査を要する場合があるので、詳細は、募集要項の各選抜のページで確認してください。

入試日程

一般選抜の入試日程は以下の通りです。
出願の詳細は学生募集要項をご確認下さい。
学生募集要項は本学ホームページからダウンロード※して閲覧できます。

※紙媒体(冊子)の学生募集要項は作成しておりません。



ホームページ(入学案内)

博士前期課程（先端科学技術専攻） 一般選抜

令和5年10月入学

出願期間（期間内の消印有効）	試験期日（本学が指定した1日）	実施方法	合格者発表日
5月24日（水）～6月6日（火）	7月1日（土）・2日（日）	オンライン	7月14日（金）

令和6年4月入学

試験区分	出願期間（期間内の消印有効）	試験期日（本学が指定した1日）	実施方法	合格者発表日
第1回	5月24日（水）～6月6日（火）	7月1日（土）・2日（日）	オンライン	7月14日（金）
第2回	9月1日（金）～14日（木）	10月14日（土）・15日（日）		10月27日（金）
第3回	11月21日（火）～12月5日（火）	令和6年1月6日（土）・7日（日）		令和6年1月19日（金）

※一つの出願についての合否が発表される前に、本学の他の選抜試験には出願できません。

博士後期課程（先端科学技術専攻） 一般選抜

令和5年10月入学

試験区分	出願期間（期間内の消印有効）	試験期日（本学が指定した1日）	試験場所	合格者発表日
第2回	6月19日（月）～29日（木）	8月17日（木）～25日（金） （土・日及び祝日等を除く）	本学	9月5日（火）

令和6年4月入学

試験区分	出願期間（期間内の消印有効）	試験期日（本学が指定した1日）	試験場所	合格者発表日
第1回	6月19日（月）～29日（木）	8月17日（木）～25日（金） （土・日及び祝日等を除く）	本学	9月5日（火）
第2回	10月24日（火）～11月7日（火）	12月11日（月）～22日（金） （土・日及び祝日等を除く）		令和6年1月19日（金）
第3回	12月6日（水）～19日（火）	令和6年2月1日（木）～16日（金） （土・日及び祝日等を除く）		令和6年3月1日（金）

※一つの出願についての合否が発表される前に、本学の他の選抜試験には出願できません。

令和6年10月入学

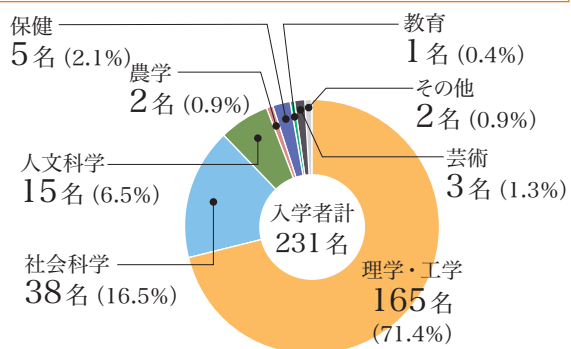
試験区分	出願期間（期間内の消印有効）	試験期日（本学が指定した1日）	試験場所	合格者発表日
第1回	12月6日（水）～19日（火）	令和6年2月1日（木）～16日（金） （土・日及び祝日等を除く）	本学	令和6年3月1日（金）

※令和6年10月入学の第2回の試験日程は、来年度公表の学生募集要項に記載します。

学生データ

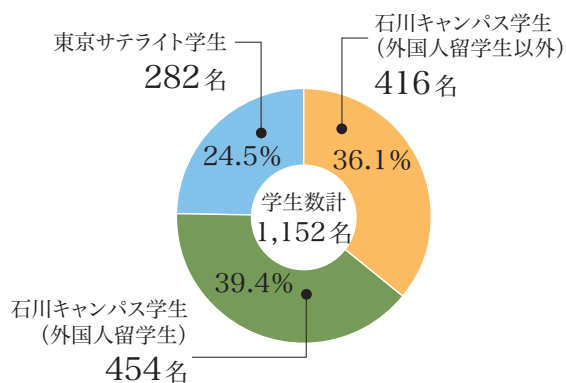
JAISTでは、出身分野を問わず、社会人・留学生を含め意欲のある人材を全国各地から広く受け入れています。

出身分野 令和5年4月博士前期課程(先端科学技術専攻) 入学者



学生比率

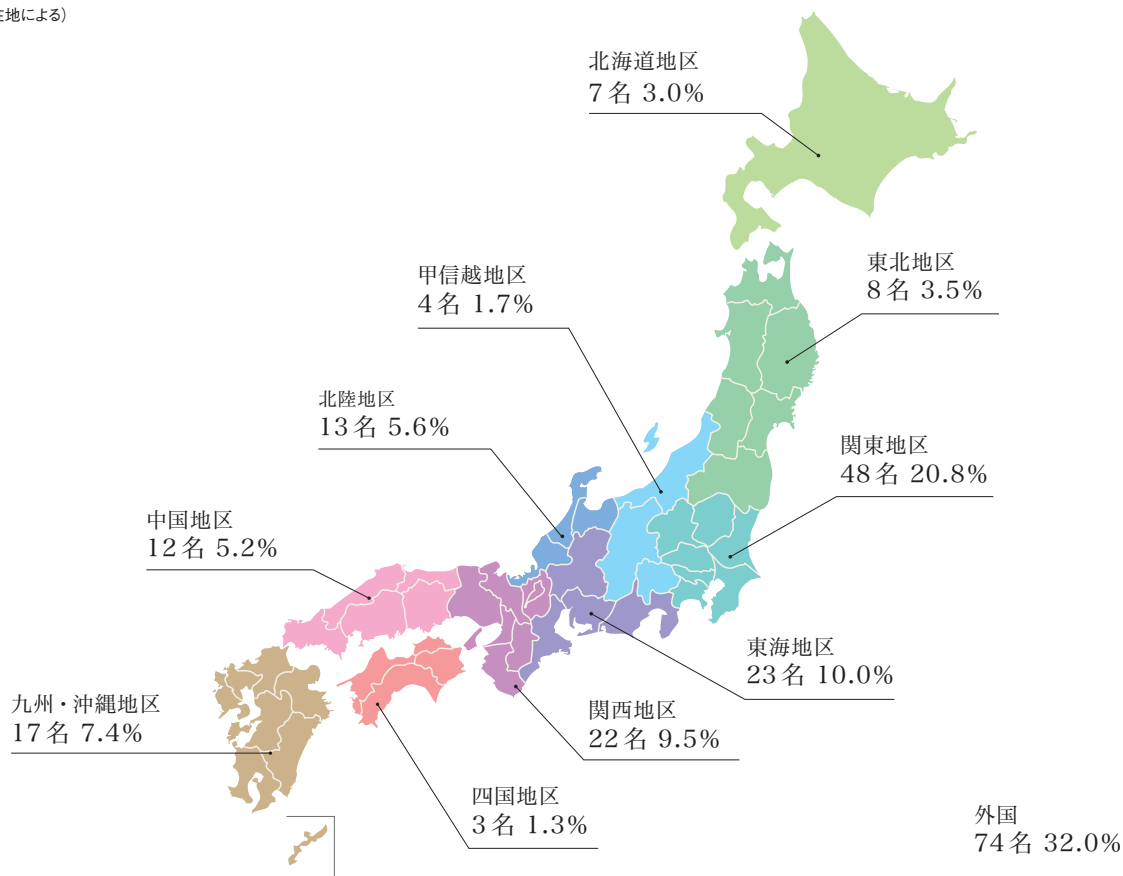
令和5年4月全在学者



出身地区別分布

令和5年4月博士前期課程(先端科学技術専攻) 入学者

(出身高校等所在地による)



イベント情報

JAISTのことをより深く知ってもらうために様々なイベントを実施しています。お気軽にご参加ください。各イベントの詳細、申込方法は随時ホームページに掲載します。

(※イベントの内容、日程等を変更する可能性があります。変更等に関しては、決定次第ホームページにてお知らせします。)

JAIST 入学案内

検索



ホームページ(入学案内)

オンライン大学院進学説明会

JAISTに興味をお持ちの方はもちろん、将来大学院への進学をお考えの方を対象として開催します。

実施内容 大学及び教育研究組織の説明、質疑応答、在学生との懇談会

日程

日程	
春季	令和5年4月22日(土)
夏季	令和5年8月5日(土)
	令和5年9月9日(土)
秋季	令和5年10月21日(土)



受験生のためのオープンキャンパス

JAISTの魅力を体験することができるオープンキャンパスを開催します。

実施内容 大学院説明会、研究室パネル展示、研究室オープン、施設見学、入学・学生生活相談コーナー、在学生による相談コーナー

日程・開催地等

	日程	開催地等
第1回	令和5年5月20日(土)	オンライン開催
第2回	令和5年8月26日(土)	石川キャンパス※
第3回	令和5年11月18日(土)	オンライン開催



※新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンライン開催に変更する場合があります。決定次第ホームページにてお知らせしますので、参加申込み前にご確認ください。

●いつでも大学院進学相談会

石川キャンパス入学希望者対象(場所: 石川キャンパス)

ご希望の日程で、希望教員による研究領域及び研究室の説明のほか、学生寄宿舎、附属図書館などの施設見学を行います。

東京社会人コース入学希望者対象(場所: 東京サテライト)

ご希望の日程で、指導希望教員(知識科学系、情報科学系)との面談を行います。

申込方法

JAIST HP「入学案内>いつでも・どこでも大学院進学相談会」の「いつでも大学院進学相談会」申込みフォームからお申込みください。

申込みの際に、オンライン・対面(本学を訪問)のどちらかをお選びいただけます。なお、対面をご希望の場合、必ずしもご希望に沿えるとは限りません。

●どこでも大学院進学相談会

参加人数が2名以上の場合、ご希望の場所で、本学教員による大学概要及び研究領域の説明を行います。

申込方法

学生募集係(nyugaku@ml.jaist.ac.jp)までメールでお問い合わせください。

キャンパスマップ



JAISTギャラリー(18 エントランスホール)
本学の研究成果と世界屈指のパズルを展示しています。

- 1 知識科学系研究棟I
- 2 知識科学系研究棟II
- 3 知識科学系研究棟III
- 4 知識科学系講義棟
- 5 情報科学系研究棟I
- 6 情報科学系研究棟II
- 7 情報科学系研究棟III
- 8 情報科学系講義棟

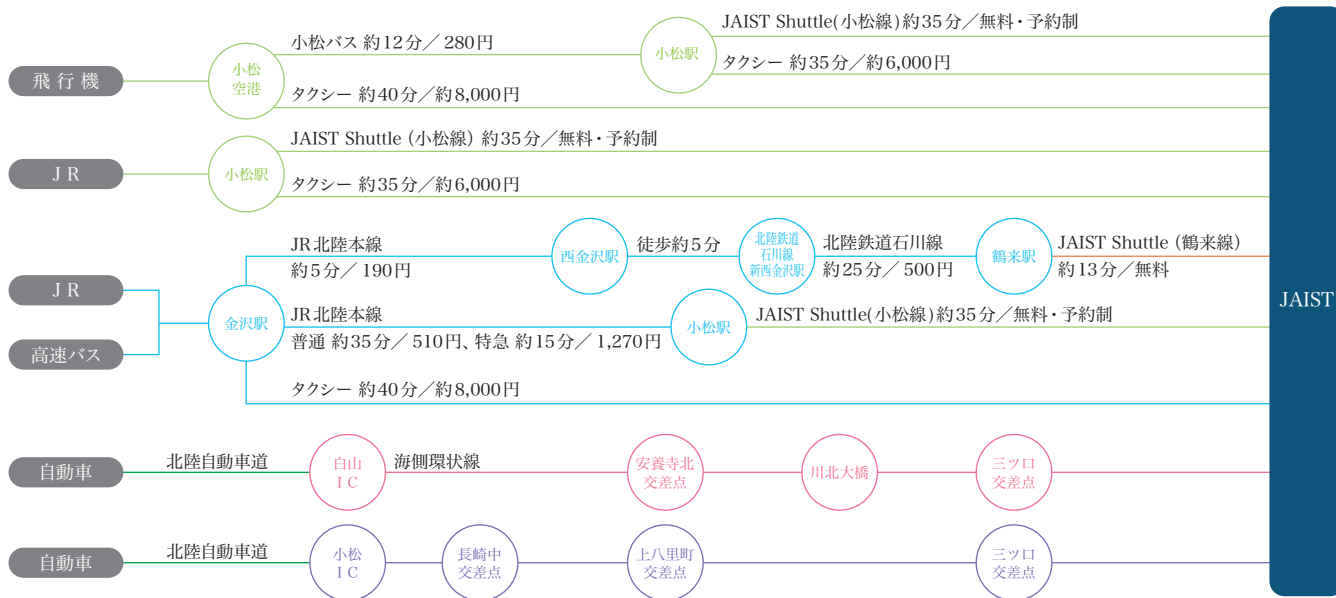
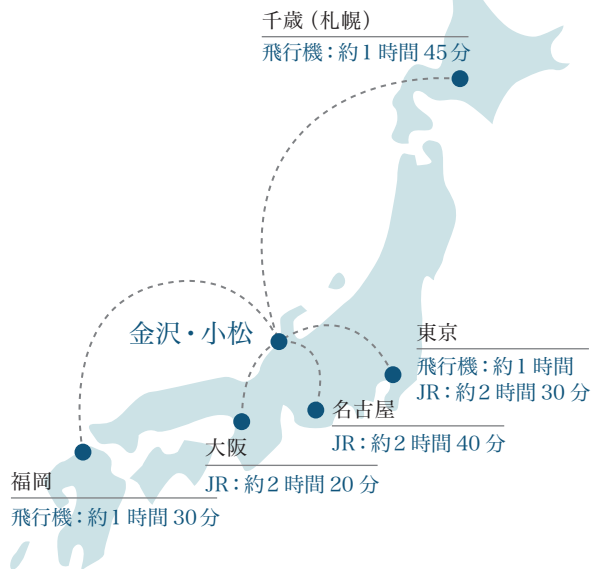
- 9 マテリアルサイエンス系研究棟I
- 10 マテリアルサイエンス系研究棟II
- 11 マテリアルサイエンス系研究棟III
- 12 マテリアルサイエンス系研究棟IV
- 13 マテリアルサイエンス系講義棟
- 14 ナノマテリアルテクノロジーセンター
- 15 工作棟
- 16 電子顕微鏡棟

- 17 総合研究実験棟
- 18 エントランスホール
- 19 産学官連携本部棟
- 20 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
- 21 JAISTイノベーションプラザ
- 22 大学会館(食堂、ATM)
- 23 附属図書館
- 24 コンビニエンスストア、トレーニングルーム

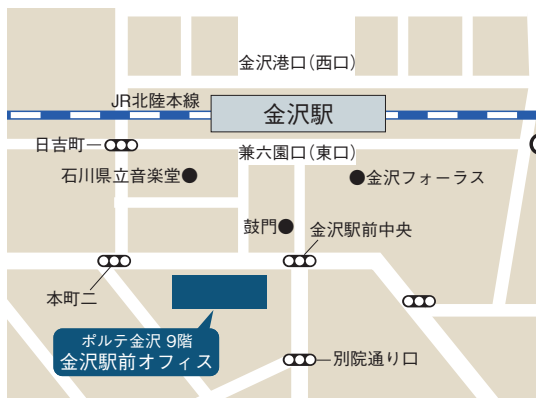
- 25 体育館
- 26 JAIST国際セミナーハウス
- 27 学生寄宿舎
- 28 JAIST HOUSE
- 29 職員宿舎
- 30 本部棟
JAIST Shuttle(小松線)バス乗降場
- 31 JAIST Shuttle(鶴来線)バス乗降場
- 32 来客用駐車場



JAISTへのアクセス



金沢駅前オフィス



石川県金沢市本町2-15-1 ポルテ金沢9階
◎JR「金沢駅」兼六園口（東口）から徒歩2分

東京サテライト



東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟19階
 ◎JR「品川駅」港南口から徒歩3分
 ◎京浜急行線「品川駅」高輪口から徒歩5分

▶ JAIST Shuttle 鶴来線

JAISTと北陸鉄道石川線鶴来(つるぎ)駅を結ぶ無料連絡バスです。



▶ 北陸鉄道石川線 (私鉄)

鶴来駅と野町駅(金沢市内)を結ぶ私鉄です。JRとの乗り換え、金沢市内へのアクセスに便利です。野町から片町までは徒歩15分程度、電車の到着に合わせ、野町駅からJR金沢駅行きのバスも運行しています。

■ 北陸鉄道ホームページ <http://www.hokutetsu.co.jp/>



▶ JAIST Shuttle 小松線 (予約制)

JAISTとJR小松駅を結ぶ無料連絡バスです。JR小松駅発着の一部の特急に接続するように運行しています。乗車人数に限りがあるので、入学前に利用したい場合は、本学に予約を依頼してください。



▶ のみバス (能美市コミュニティバス)

JAISTとJR能美根上駅を結ぶ「連携ルート」と、能美市内の各地区を廻る「循環ルート」「さとやまルート」「観光ルート」から構成され、料金は一律100円です。能美市内へのアクセスが可能で、能美市役所や、JR能美根上駅、また市内の買い物に行く際に便利です。

■ 能美市ホームページ <https://www.city.nomi.ishikawa.jp/>



▶ 北鉄バス (私鉄)

朝夕計2本のバスがJAISTを経由して運行しています。夕方の金沢駅行きは、乗換えなしで金沢の中心街に行くことができます。土・日・祝日は運行していません。

■ 北陸鉄道ホームページ <http://www.hokutetsu.co.jp/>



▶ カーシェアリング

カーシェアリングとは、1台の自動車を複数の人が共同で利用する、自動車の新しい利用形態です。JAISTには、構内にステーション(専用駐車スペース2台分)が設けられており、予約すれば24時間365日、手軽に日常的な買物や、レジャーに利用できます。料金は月毎の基本料金と予約した時間と走行距離に応じて課金されます。割安なパック料金もあり、支払いはクレジットカードで行います。



国立大学法人

北陸先端科学技術大学院大学

〒923-1292 石川県能美市旭台1-1

| 学生募集係 | TEL : 0761-51-1966 E-mail : nyugaku@ml.jaist.ac.jp

| 入 試 係 | TEL : 0761-51-1177 E-mail : nyushi@ml.jaist.ac.jp

<https://www.jaist.ac.jp>

JAIST

検 索

